

第3章

仕事と介護の両立、 遠距離介護に関する追加調査

第3章 仕事と介護の両立、遠距離介護に関する追加調査

1. 追加調査実施概要

(1) 調査目的

「家族介護」のうち、介護者の「仕事と介護の両立」と「遠距離介護」については、前章で整理した先行研究においては、未だ十分には検討されていないことが示された。そこで本事業においては、「仕事と介護の両立」、並びに「遠距離介護」の観点に着目した調査を実施し、新たな知見の獲得、方策の展開に役立てていくことを目的としたアンケート調査を実施する。

(2) 調査対象 (※)

- ・対象者：全国の20代から50代までの賃金労働者である男女各515人（合計4,120人）。
- ・Web調査会社の登録モニターのうち、アルバイト、パートタイマー、自営業者、学生は対象外とした。

(3) 調査方法

- ・Web調査（事前登録モニター方式）

(4) 調査期間

- ・平成26年1月29日～1月31日

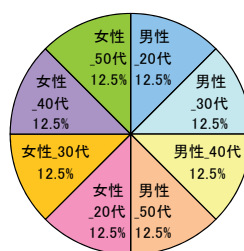
(※) Web調査の性格上、回収率という概念はない（指定対象数に到達するまで調査を実施）。

(5) 回答者の基本属性

調査回答者は20歳から59歳までの男女4,120名である。あらかじめ10歳刻みの年齢と性別による8層に対象者を均等に割り当てた（各層515人）。

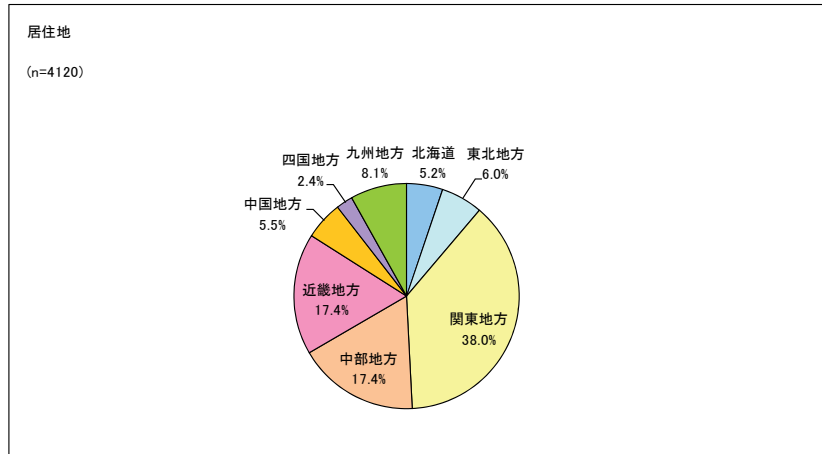
【調査回答者の性別・年齢】

性別・年齢
(n=4120)



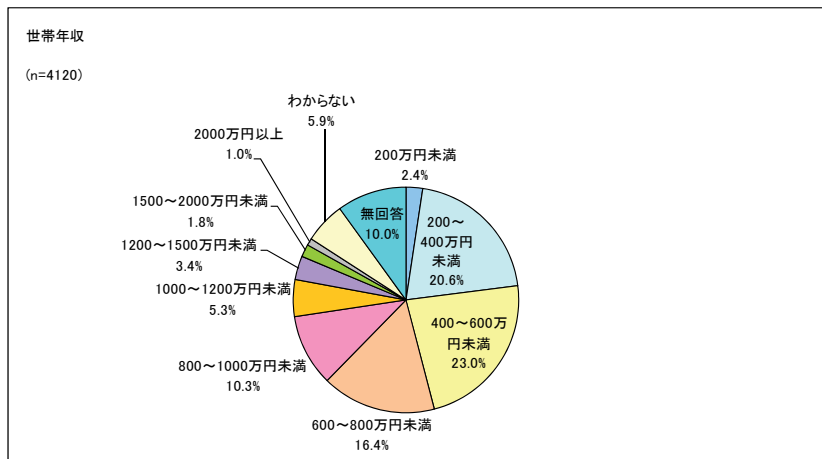
【調査回答者の居住地】

調査回答者の居住地は関東地方が38.0%と最も多く、続いて中部地方と近畿地方であり、各17.4%であった。



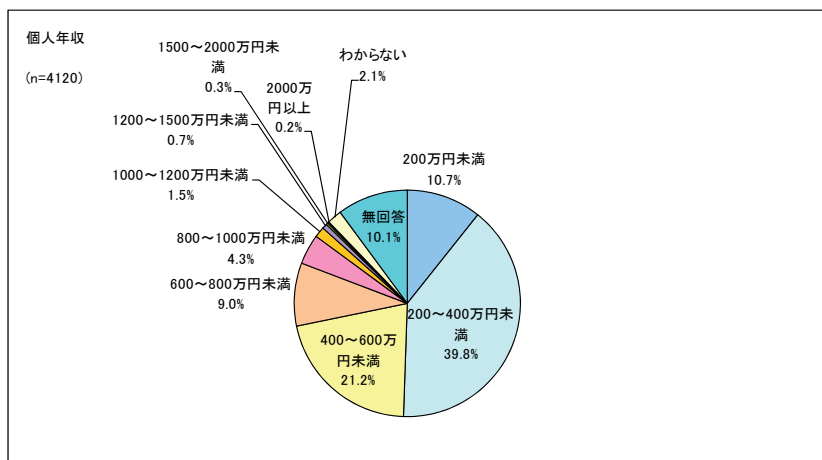
【調査回答者の世帯年収】

調査回答者の世帯年収は、600万円未満が46.0%と約半数であった。一方1,000万円以上は11.5%と約1割を占めていた（モニター登録時のデータより）。



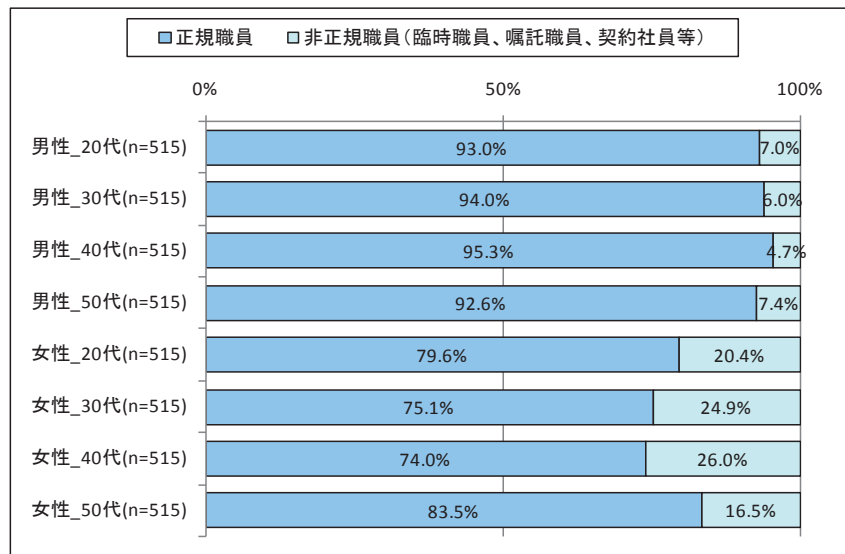
【調査回答者の個人年収】

調査回答者の個人年収は400万円未満が50.5%と半数を占めた。また1,000万円以上は2.7%であった（モニター登録時のデータより）。



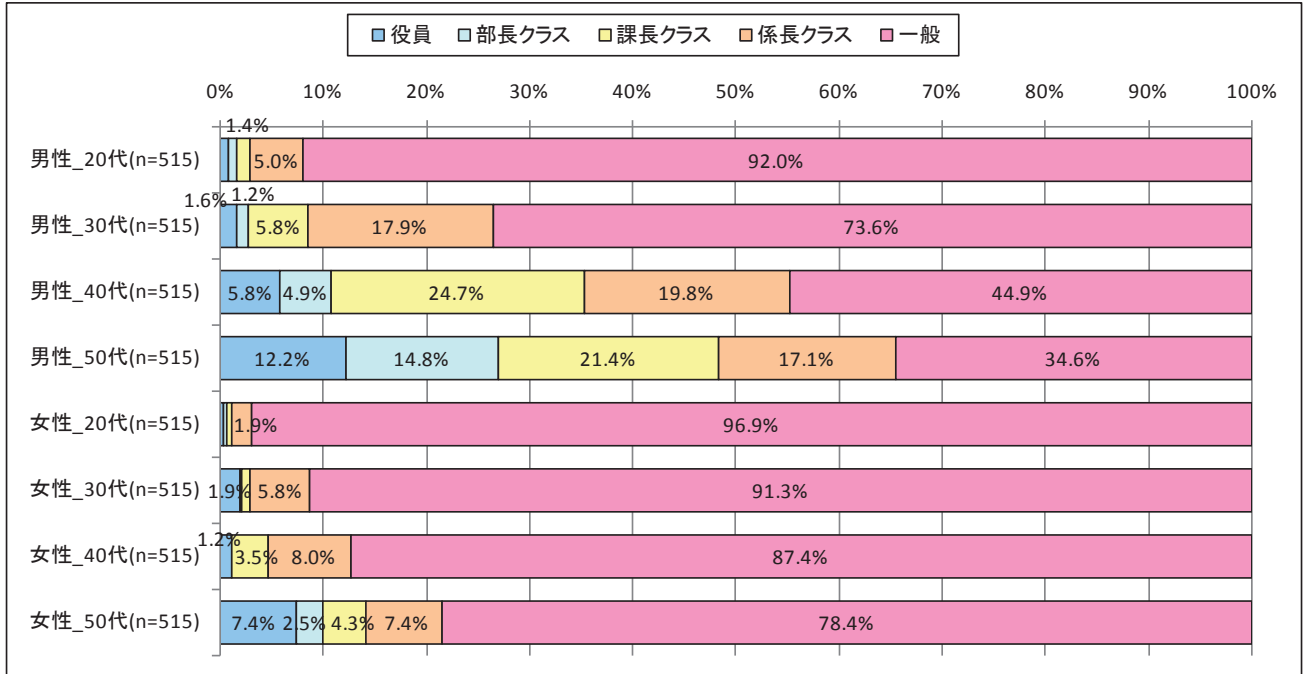
【調査回答者の雇用形態】

雇用形態は男女ともどの年齢でも正規職員が多くを占めていた。



職位は、男女ともに年齢が上昇するに連れて、管理職・役員の割合が多いが、女性の管理職・役員の割合は男性よりも少なかった。

【調査回答者の職位】 ※1%未満は非表示。

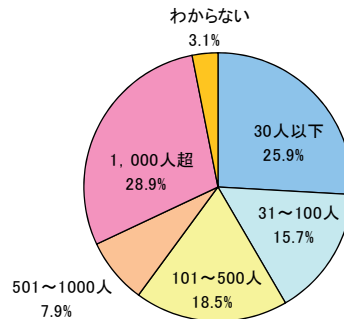


【企業規模】

企業規模は1,000人超の大規模企業が28.9%、101人～1,000人の中規模企業が26.4%、100人以下の小規模企業が41.6%であった。

[Q5]あなたがお勤めの企業の規模(おおまかで)をお知らせください。
※複数の職に就いている方は、メインのものを教えてください。
※出向、派遣の方は出向元、派遣元についてご回答ください。

(n=4120)

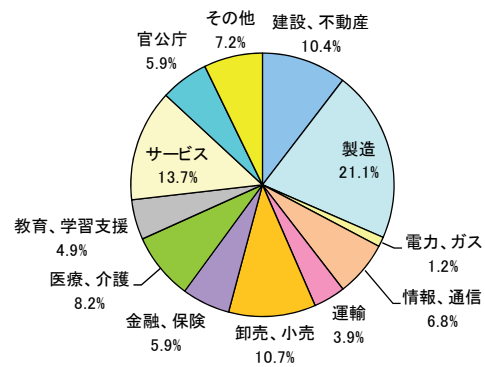


【業種】

業種は製造業が21.1%と最も多く、続いてサービス業が13.7%、卸売・小売業が10.7%であった。

[Q6]あなたがお勤めの企業の業種をお知らせください。
※複数の職に就いている方は、メインのものを教えてください。

(n=4120)



(6) 調査項目一覧 (マーキングした調査項目は、本追加調査において特に着目する事項)

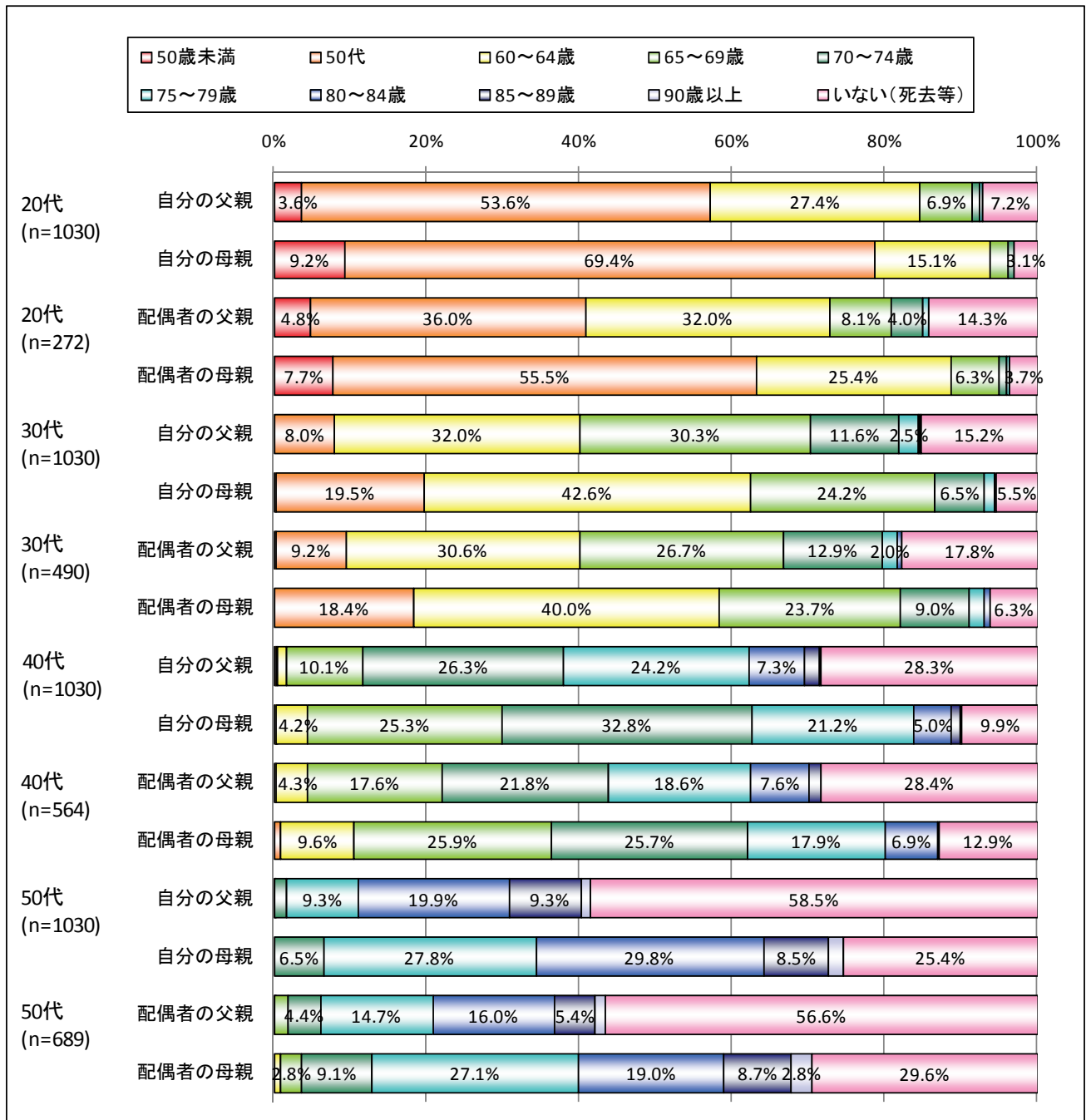
No.	項目	特記
---	【基本属性】(性別、年齢、居住地、世帯年収、個人年収)	※インターネット調査協力会員の登録時データを引用
Q 1	現在の婚姻状況	
Q 2	同居している 18 歳未満の子どもの有無	
Q 3	雇用形態	
Q 4	職位	
Q 5	企業規模	
Q 6	業種	
Q 7	親の年齢	
Q 8	親の住まいの種類	
Q 9	親の居住地への移動手段(距離)	
Q10	親の世帯構成	
Q11	親の介護状況	
Q12	親の主たる介護者	※親が現在介護の必要な状況にある人
Q13	親の心身状況(認知症の有無)	
Q14	要介護認定	
Q15	要介護度	
Q16	利用している介護保険給付の在宅サービス	
Q17	あなた自身の現在の介護への関わり(意識)	
Q18	あなた自身の現在の介護への関わり(程度)	
Q19	仕事と親の介護の両立状況	
Q20	Q19 で両立が困難と回答した理由	
Q21	介護のために離転職した経験の有無	
Q22	親を介護するようになるまでの準備状況	
Q23	親の介護が必要な状態になったときの相談先	
Q24	介護についての情報源	
Q25	今から振り返って親の介護について事前に準備をしておけばよかったこと	
Q26	仮に今後介護が必要になった場合の主たる介護者	※近い将来(2~3年のうち)親の介護が必要になると思う方、まだ親の介護の心配はないと思う人
Q27	介護で仕事を休む人の有無	
Q28	介護で仕事を休むことについての職場の雰囲気	
Q29	周囲に介護で長期間休む人がいて、あなたの業務にしわ寄せがあったときの気持ち	
Q30	職場における家族の介護についての把握状況	
Q31	職場における家族を介護する際の休暇制度の認知度	
Q32	仕事と介護を両立していく上で不安だと思うこと	※親が現在介護の必要な状況にある人以外に質問(Q20 に対応)
Q33	介護をしながら今の仕事を続けることについて	
Q34	Q33 で仕事をやめて介護に専念したいと回答した理由	
Q35	呼び寄せ介護について	
Q36	呼び寄せ介護が難しいと思う(思われる)理由	
Q37	介護が必要になったときのための準備行動の状況	※親が現在介護の必要な状況にある人以外に質問(Q25 に対応)
Q38	介護の情報源	※親が現在介護の必要な状況にある人に質問(Q24 に対応)
Q39	公的支援の認知度	
Q40	仕事と介護の両立のために、職場で取組んでほしいこと	
Q41	仕事の仕方のタイプ	
Q42	今までのあなた自身の介護との関わり(経験)	
Q43	仕事と介護を両立していくために必要な支援	自由回答

2. 調査結果

(1) 親の年齢

親の年齢は、40代になると、65歳以上が多くを占めた。なお20代においても、「自分の父親」は約4割、「自分の母親」では約2割が60歳以上であった。

【年齢別＊親の年齢】

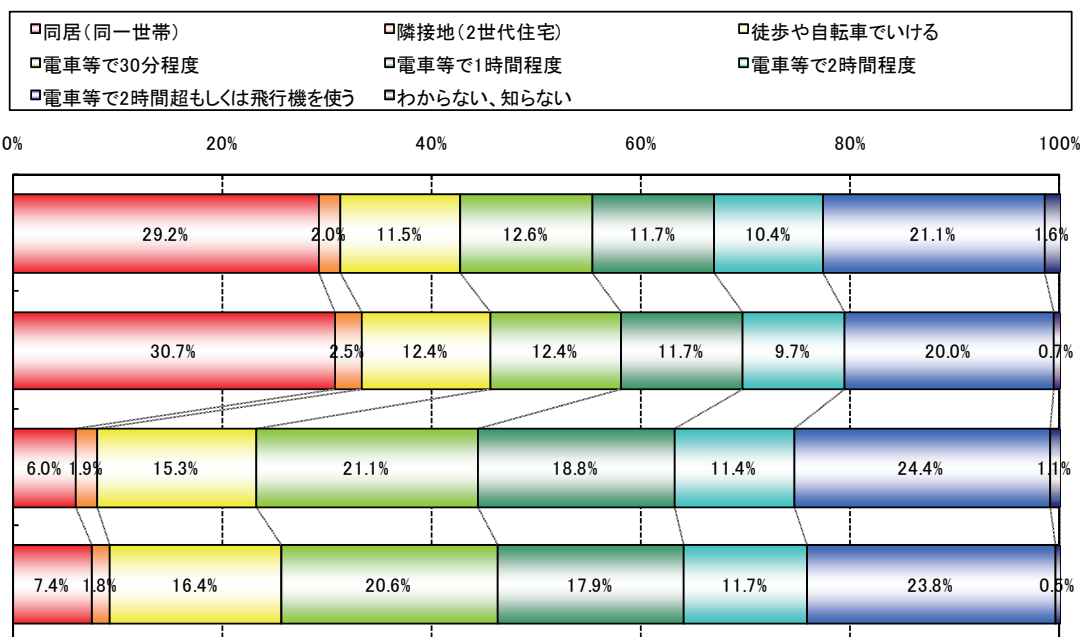


(2) 親の居住地までの距離

親の居住地までの距離は、1 時間程度以内を「近距離」、1 時間程度超～2 時間程度を「中距離」、2 時間程度を超えるものを「遠距離」と分類すると、自分と配偶者の親ともに、「電車等で 2 時間程度」以上の「遠距離」は約 3 割であった。

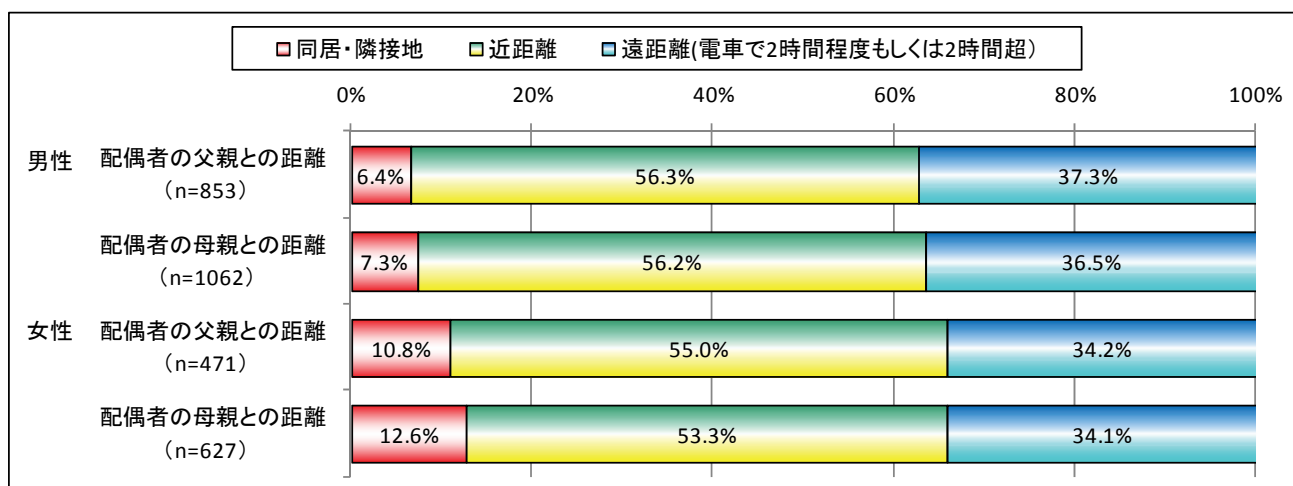
【親の居住地への移動手段（距離）】

[Q9]あなた、もしくは配偶者の親の居住地への移動手段(距離)で最もあてはまるものを、それぞれお知らせください。



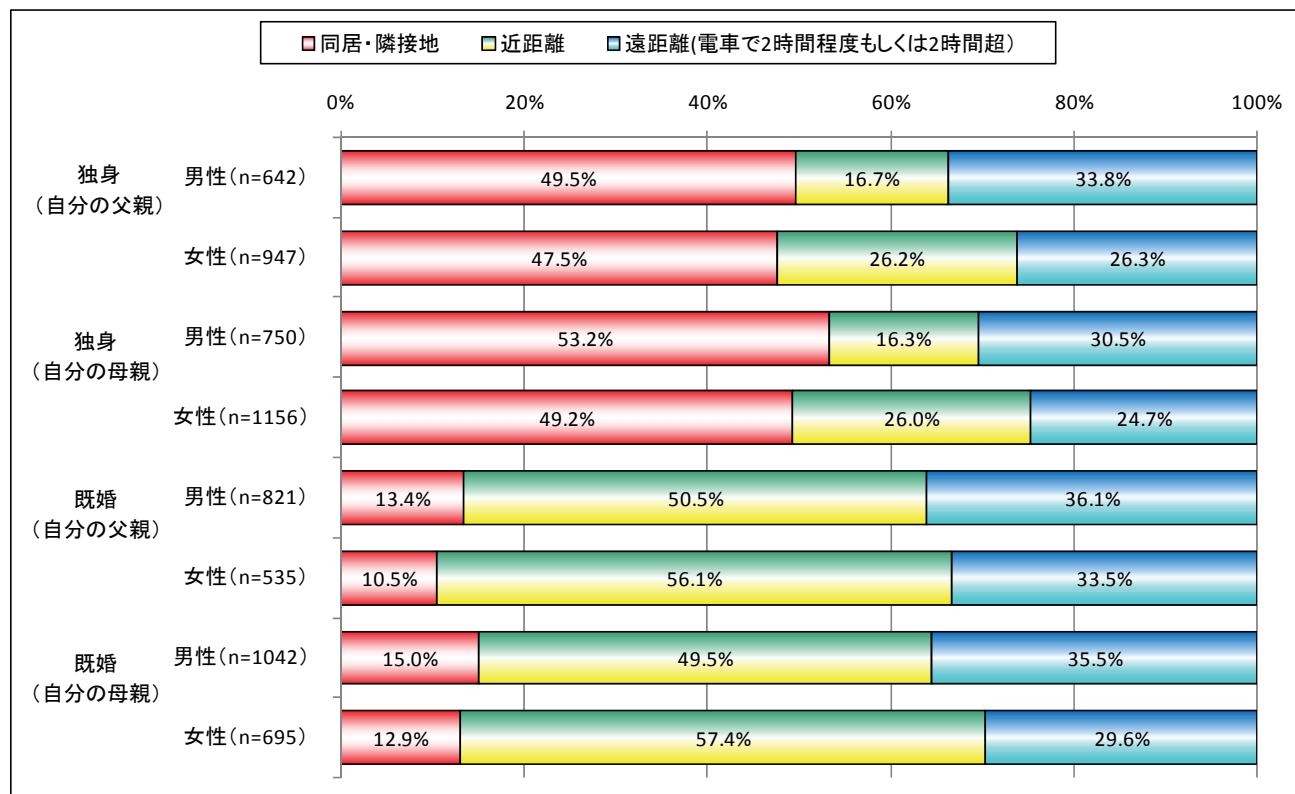
配偶者の親との同居の状態について、性別で集計を行った。その結果、男女ともにあまり差異はみられなかった。

【性別 * 配偶者の親の居住地への移動手段（距離）】



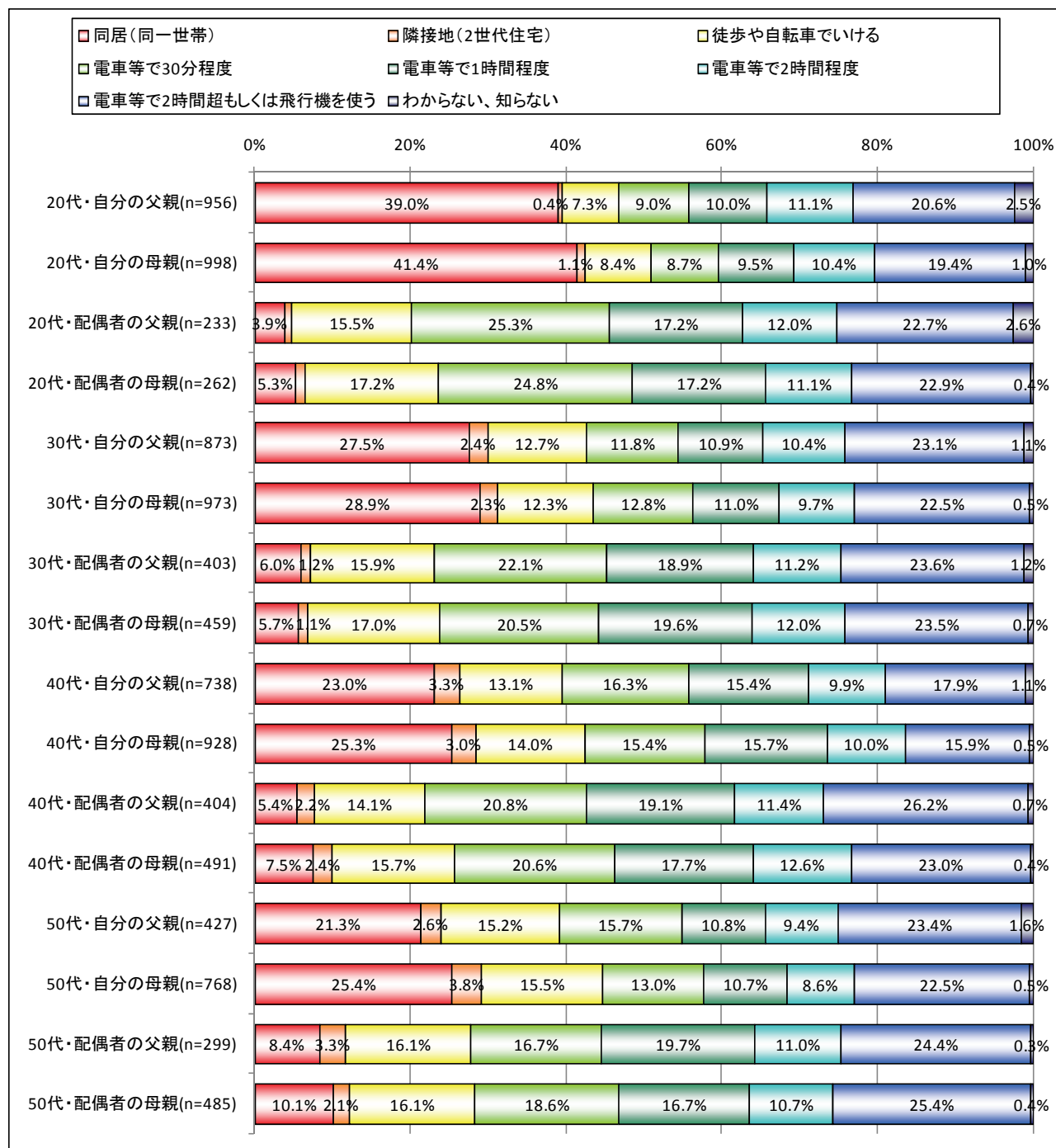
婚姻状況別に親との同居状況をみると、独身時は親との同居が約半数であるが、結婚すると親との同居は約1~2割に減少した。なお「遠距離」は婚姻に関わらず約3割と一定しており、結婚して親元を離れるものの、親の居住地から電車で1時間程度内の「近距離」に子が住まう傾向がみられた。

【婚姻状況・性別＊自分の親の居住地への移動手段（距離）】



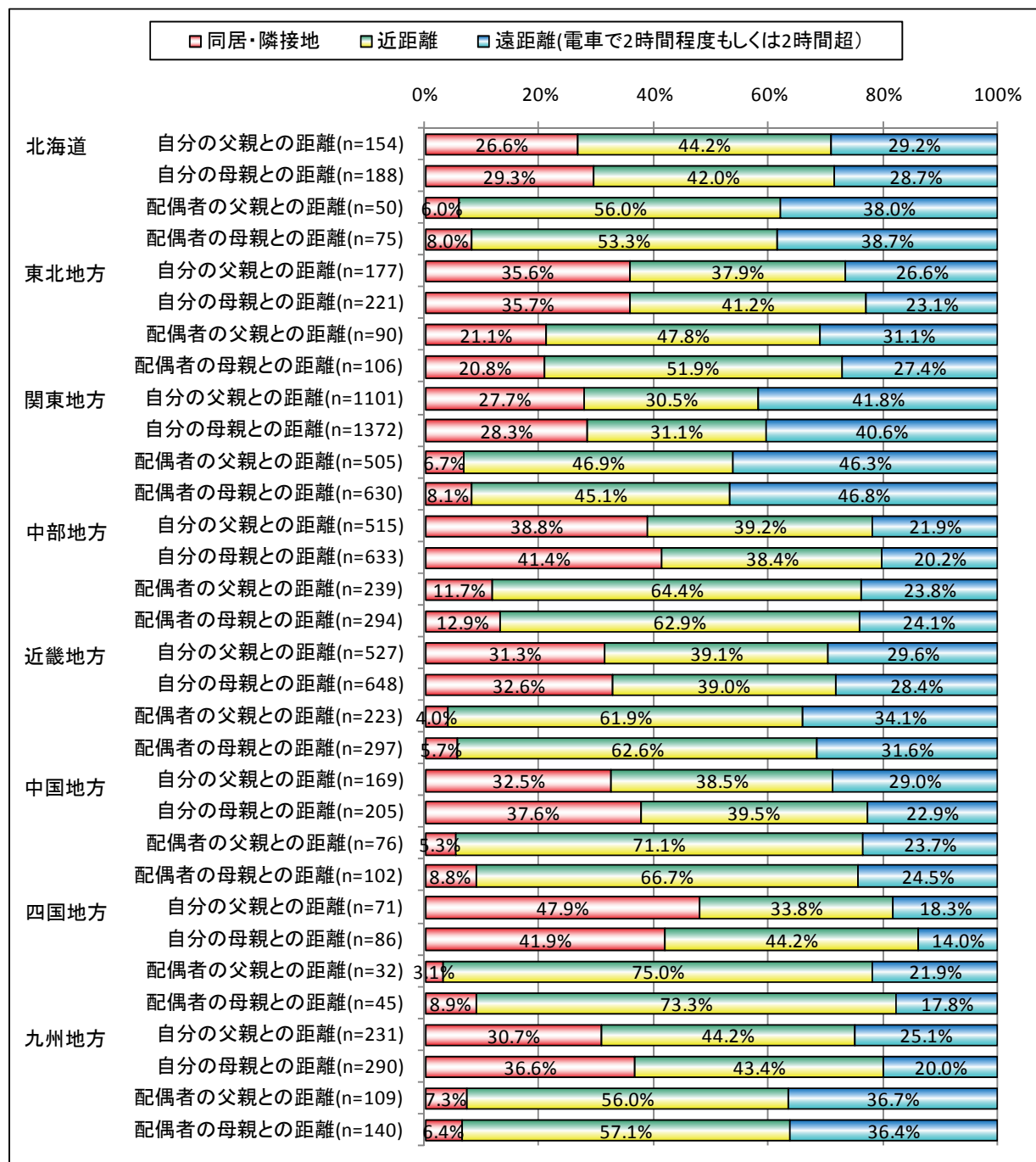
年齢別に親との同居状況を見ると、20代では自分の親と同居している割合が約4割であった。30代では自分の親と同居している割合が約3割と減少し、40代以降では約2割の同居率であった。他方、「電車等で2時間程度」、「電車等で2時間超もしくは飛行機を使う」を合わせた「遠距離」は、自分の親、配偶者の親ともにどの年齢であっても約3割であった。

【年齢別 * 自分の親の居住地への移動手段（距離）】



自分の居住地と親の居住地との距離をみると、関東地方に居住している人については、自分と配偶者の親ともに約 4~5 割が「遠距離」に住んでいた。

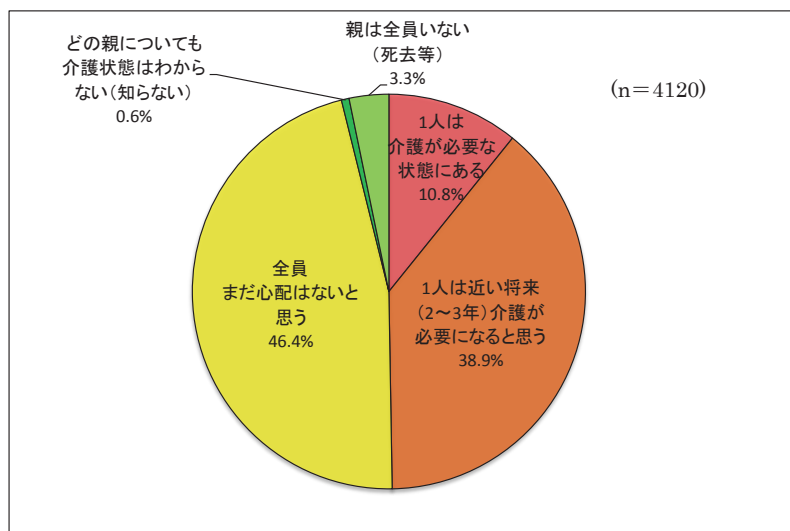
【居住地別＊親の居住地への移動手段（距離）】



(3) 親の介護状況

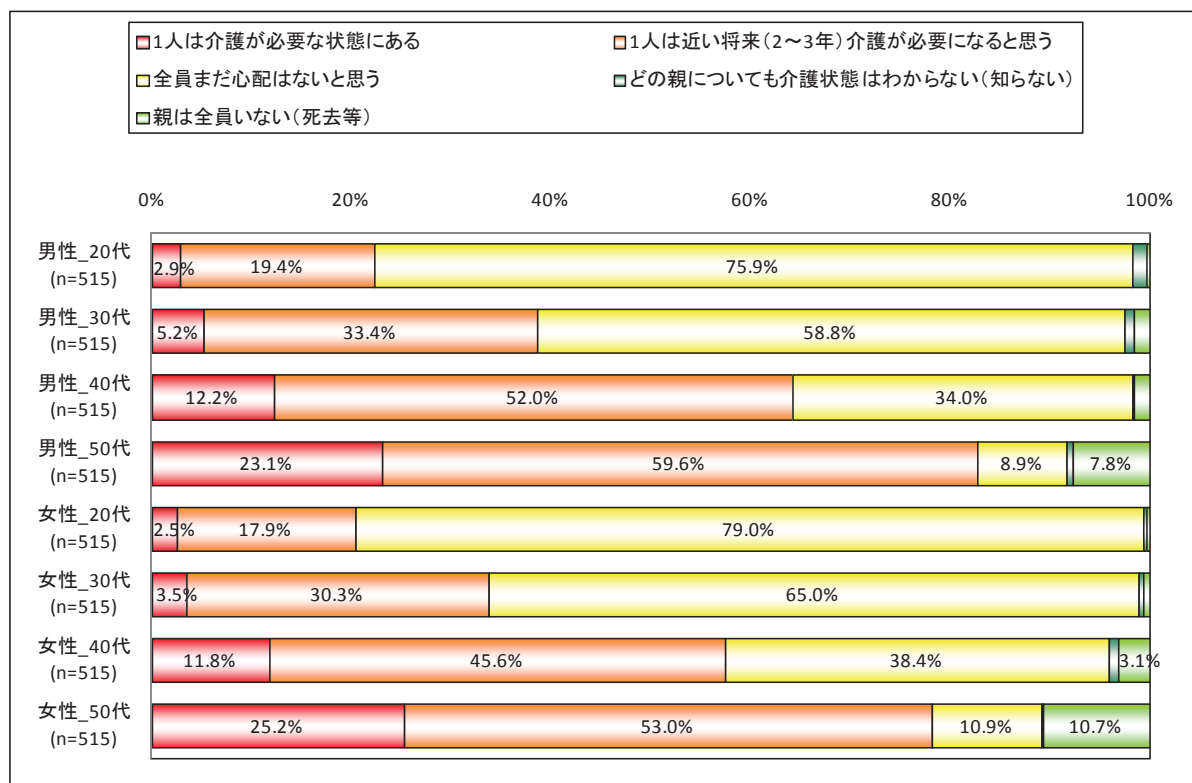
自分と配偶者の親の介護状況について、「1人は介護が必要な状態にある」人は約1割、「1人は近い将来(2~3年)介護が必要になると思う」と回答した人は約4割、「全員まだ心配はない」と回答した人は約5割であった。

【親の介護状況】



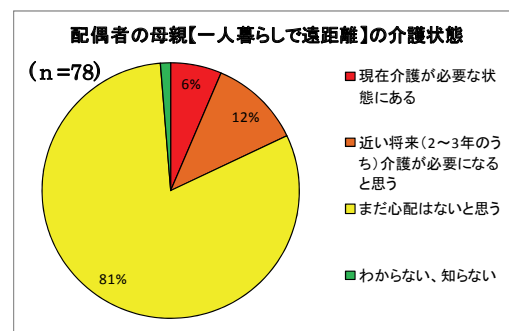
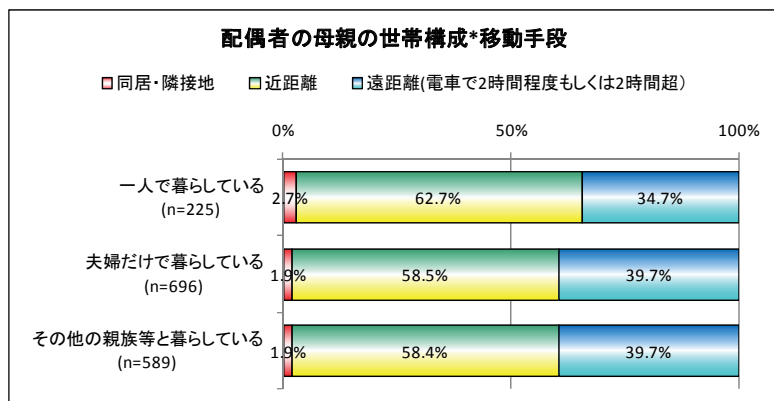
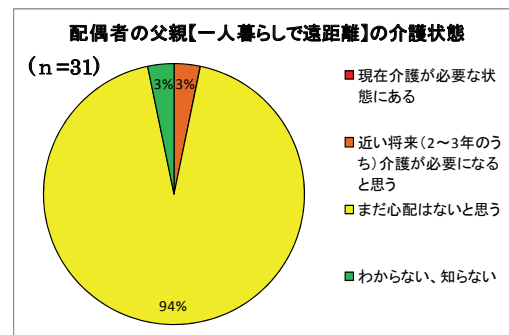
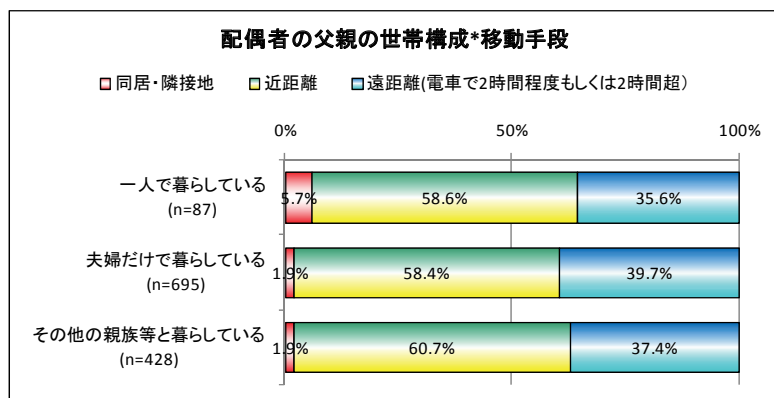
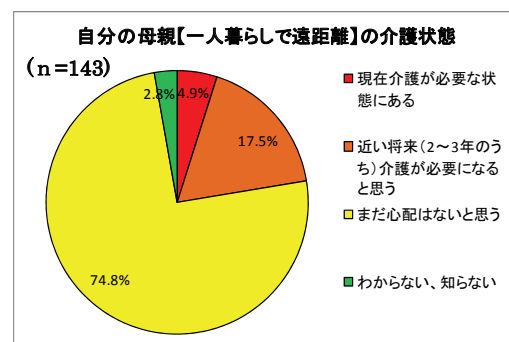
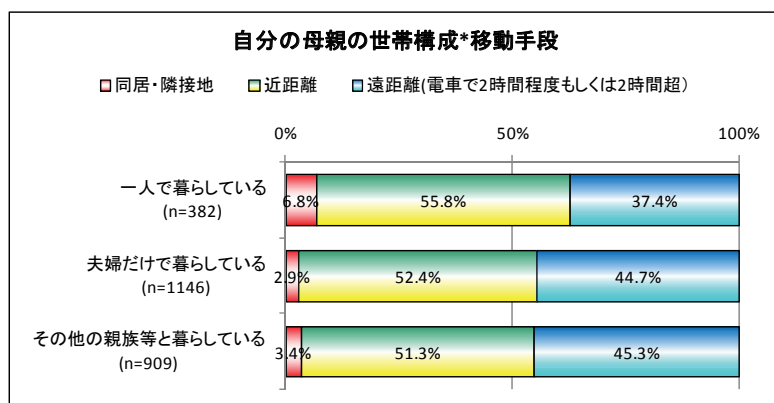
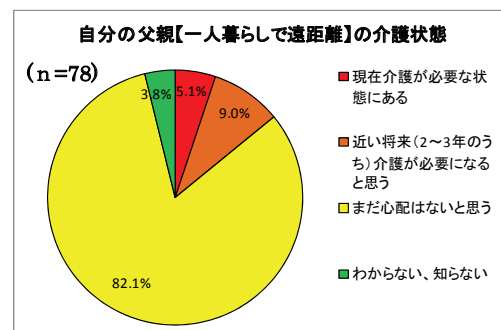
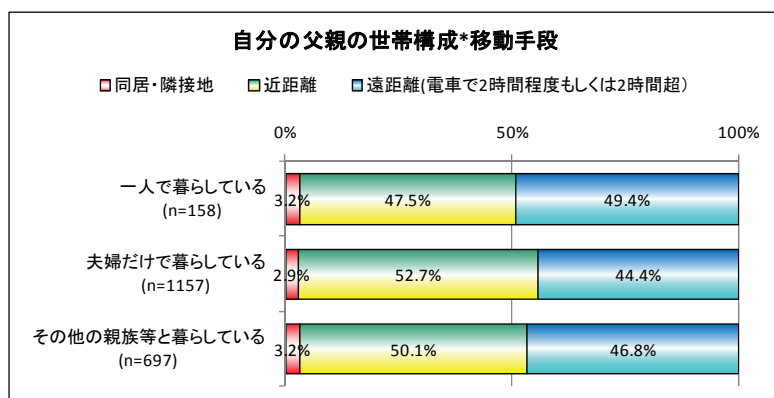
親の介護状況を性別・年齢でみると、男女ともに加齢に応じて「1人は介護が必要な状況にある」、「1人は近い将来(2~3年)介護が必要になると思う」と回答した人の割合が増加した。なお20代でも約2割の人が「1人は介護が必要な状態にある」、「1人は近い将来(2~3年)介護が必要になると思う」と回答した。

【性別・年齢*親の介護状況】



一人暮らしで「遠距離」にいる親について、「現在介護が必要な状態にある」、「近い将来（2～3年のうち）介護が必要になると思う」と回答した人も少数ながら存在した。

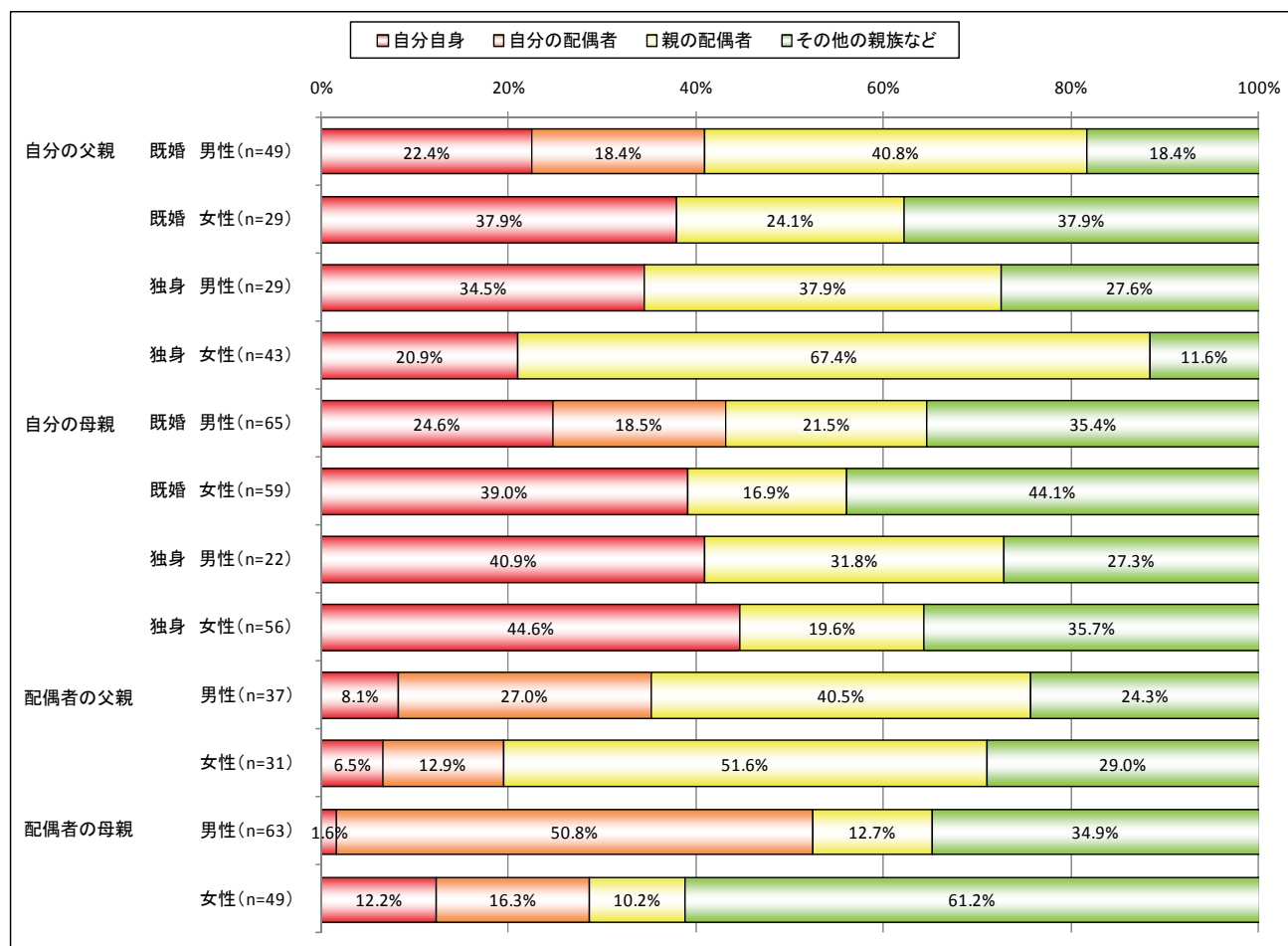
【一人暮らしで「遠距離」にいる親の介護状態】



（４－１）親の主たる介護者 ※親が現在介護の必要な状況にある人について

「親の主たる介護者は誰か」を尋ねたところ、自分と配偶者の親ともに主たる介護者は、「親の配偶者」と「その他の親族など」が半数を占めた。なお既婚者について、自身と配偶者との関係に着目すると、「自分の親」については「自分自身が主たる介護者」である人の割合が多かった。なお男性の既婚者については、「自分の親」については「自分自身」だけではなく、約２割は「自分の配偶者」（妻）が主たる介護者となっていた。

【親の主たる介護者】



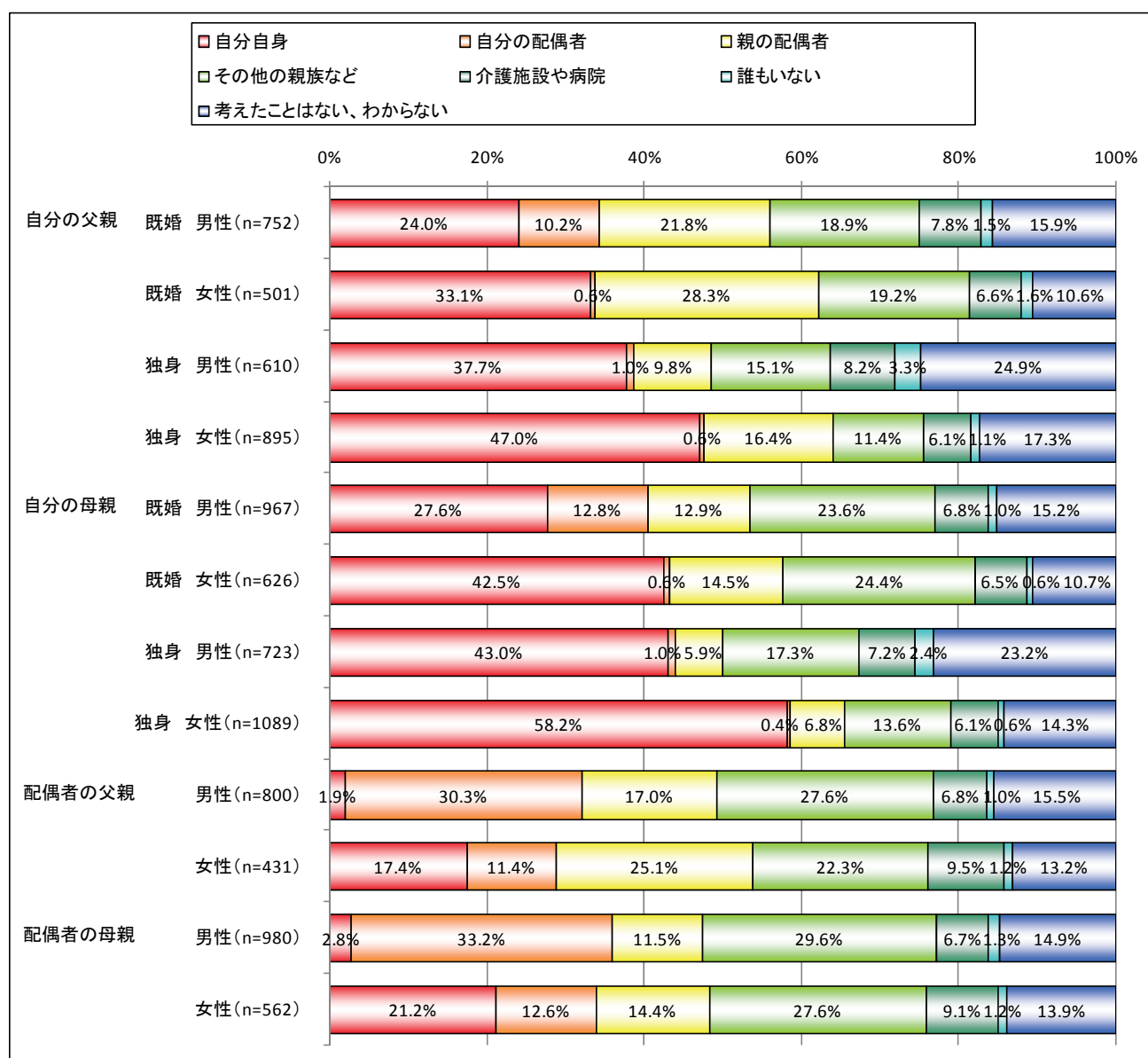
（４－２）仮に今後介護が必要になった場合の主たる介護者

※近い将来（２～３年のうち）親の介護が必要になると思う人とまだ親の介護の心配はないと思う人について

「近い将来（２～３年のうち）親の介護が必要になると思う人」と「まだ親の介護の心配はないと思う人」に対して、「仮に今後介護が必要になった場合の主たる介護者は誰か」を尋ねた。「自分の親」については、既婚・独身ともに「自分自身」と回答する人が多かった。他方、「配偶者の親」については、男性では「配偶者」（妻）が主たる介護者になると思うと回答する人が多かった反面、女性では「自分自身（舅・姑の介護を担う）」と回答する人も約２割存在した。

【仮に今後介護が必要になった場合の主たる介護者】

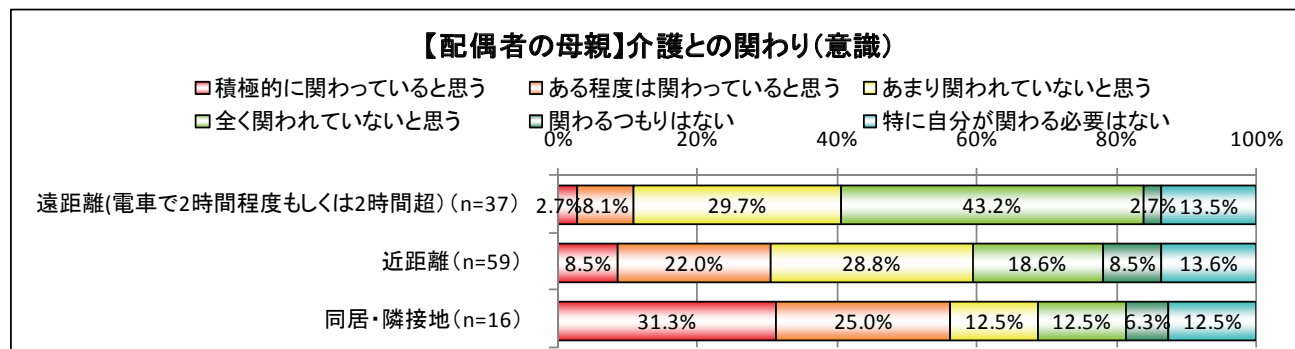
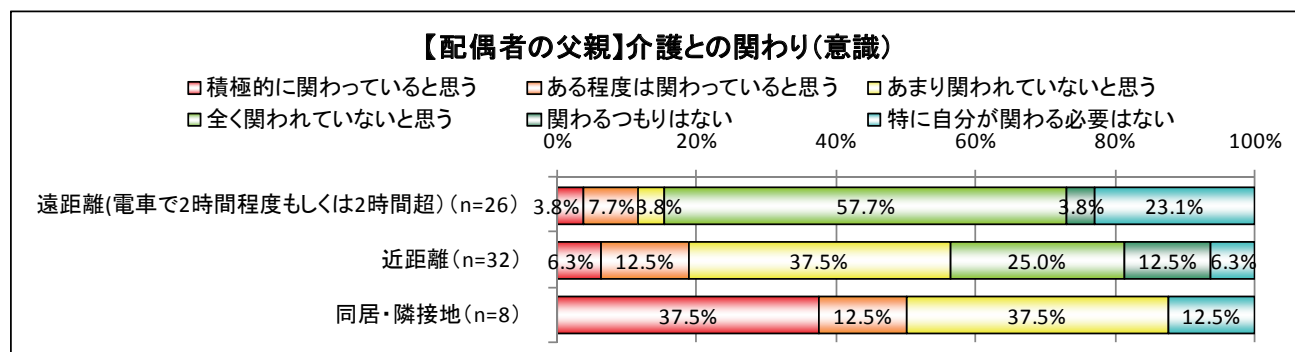
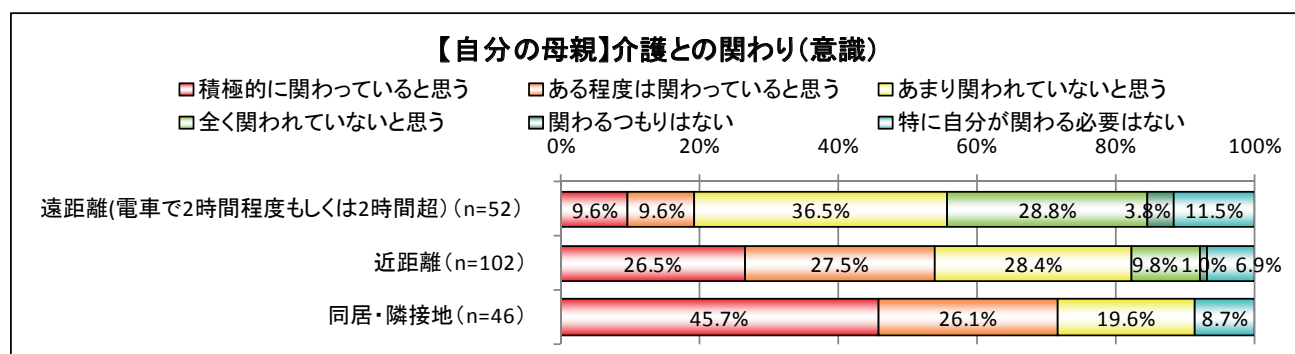
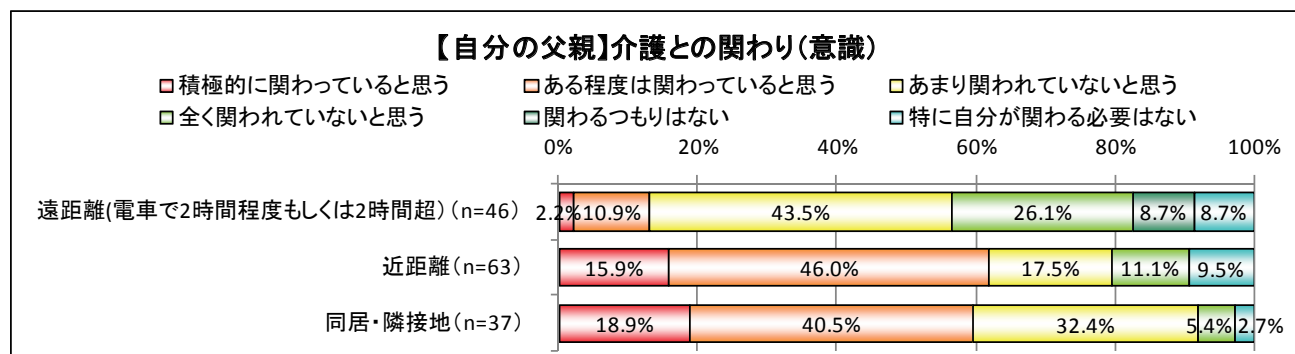
※近い将来（２～３年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人を対象



(5) 介護との関わり（意識・程度） ※親が現在介護の必要な状況にある人について

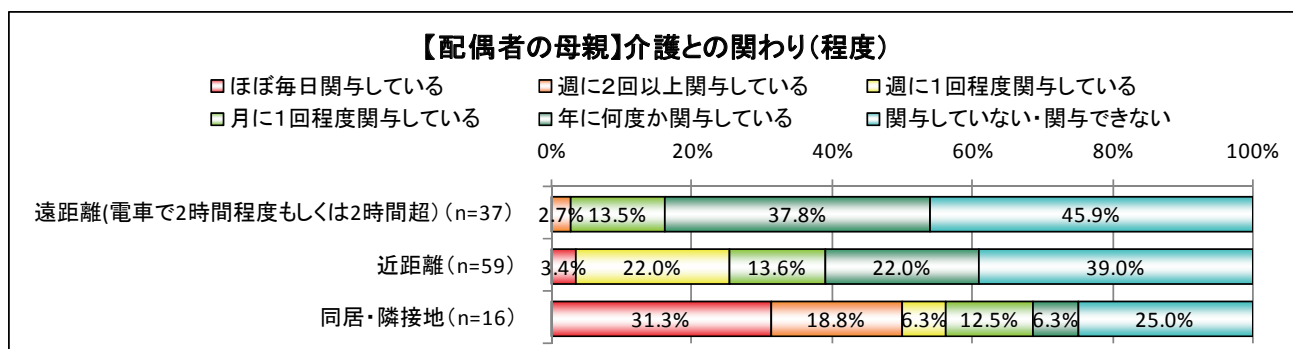
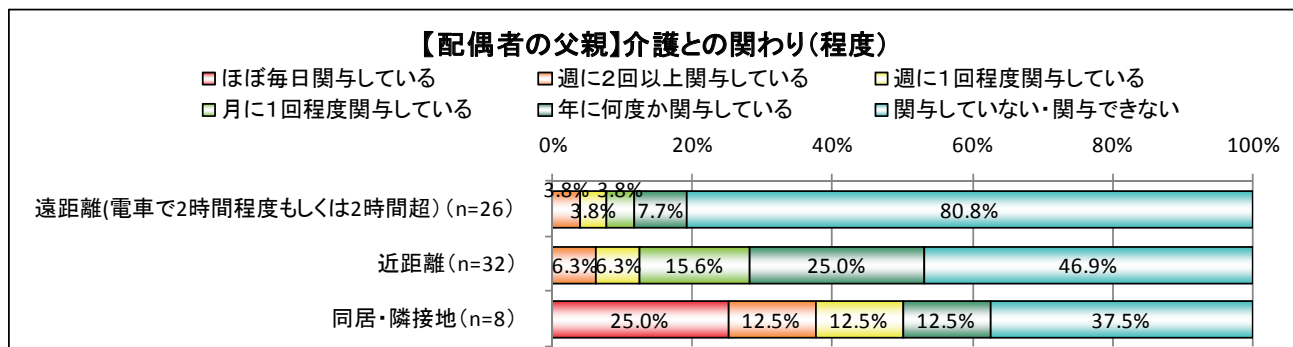
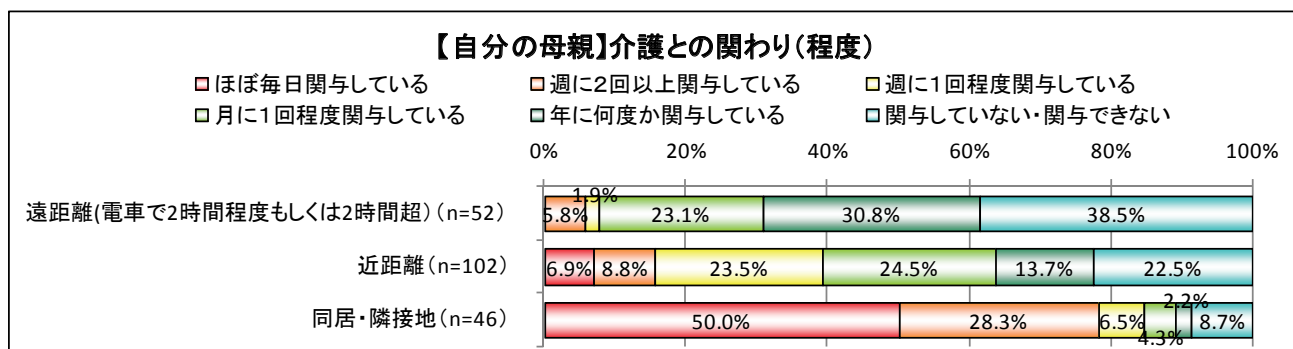
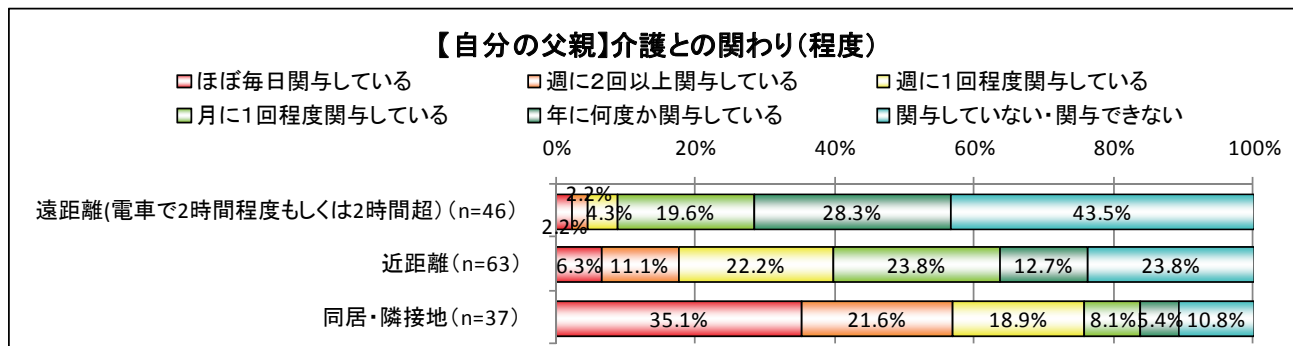
介護との関わりにおける意識を、親との距離別にみると、自分と配偶者の親ともに、「同居・隣接地」に住む人のほうが「遠距離」よりも、「積極的に関わっていると思う」と回答した割合が多かった。また親が「遠距離」にいる場合、自分の親については「あまり関わられていないと思う」との回答が約4割を占めた。

【介護との関わり（意識）】



介護との関わりの程度を、親との距離別にみると、自分と配偶者の親ともに、「遠距離」の場合には「関与していない・関与できない」と回答した人の割合が多かった。

【介護との関わり（程度）】



（６）親を介護するようになるまでの準備状況

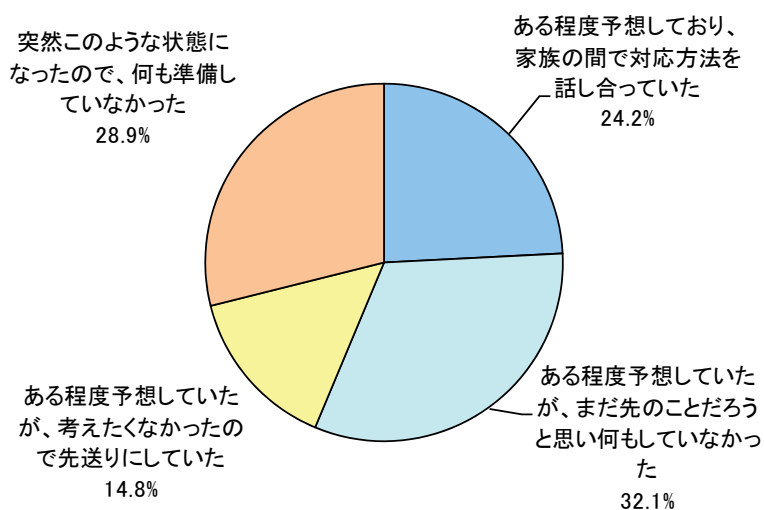
※親が現在介護の必要な状況にある人について

親を介護するようになるまでの準備状況として、「ある程度予想しており家族の間で対応方法話し合っていた」と回答した人は約 2 割であった。他方、「突然このような状態になったので、何も準備していなかった」と回答した人は約 3 割であった。

【親を介護するようになるまでの準備状況】

[Q22]あなたもしくは配偶者の親を介護するようになるまでに、どの程度準備をしてきましたか。
最もあてはまるものをお答えください。

(n=446)



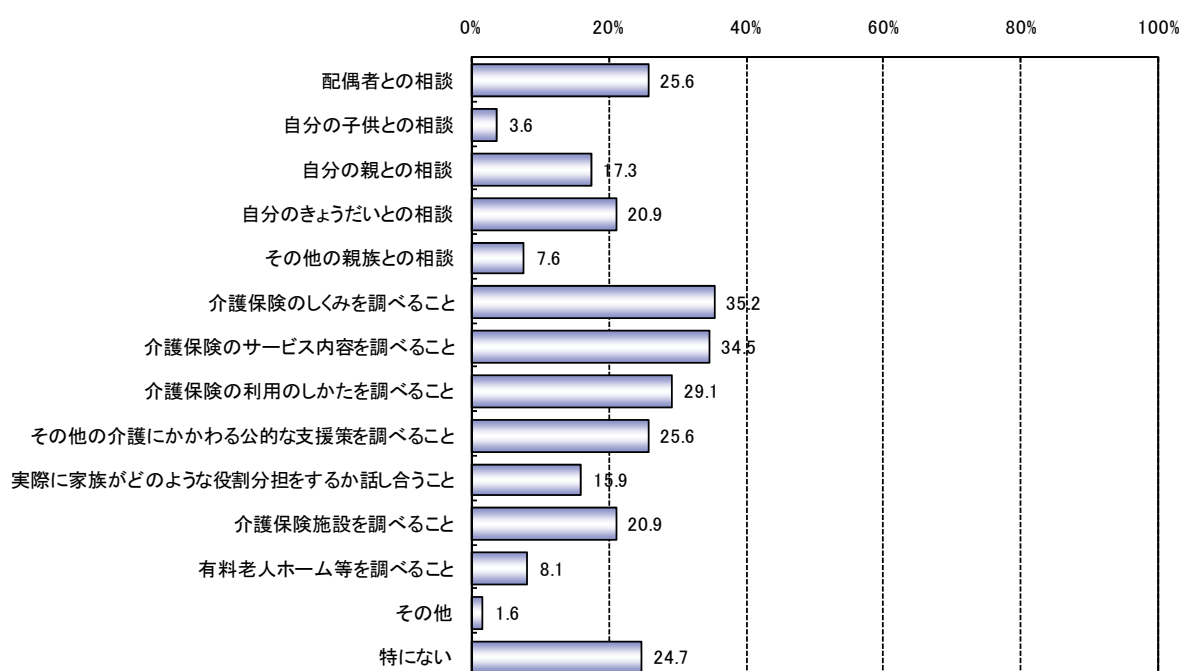
(7-1) 今から振り返って親の介護について事前に準備をしておけばよかったこと（複数回答）
 ※親が現在介護の必要な状況にある人について

「親の介護のため事前に準備をしておけばよかったこと」について上位に挙げられたことは、「介護保険のしくみを調べること」、「介護保険のサービス内容を調べること」であり、それぞれ約3割を超えた。他方、「親族との相談」についても約2割が準備をしておけばよかったこととされた。

【親の介護のため事前に準備をしておけばよかったこと】

[Q25]今から振り返ってみて、あなたもしくは配偶者の親の介護について、あなたは事前にどのような準備をしておけばよかったと思いますか。（いくつでも）

(n=446)



(7-2) 介護が必要になったときのための準備行動の状況（複数回答）

※近い将来（2～3年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人について

【親の介護状況別＊介護が必要になったときのための準備行動】

「1人は近い将来（2～3年のうち）介護が必要になると思う」人と「まだ親の介護の心配はないと思う」人について、準備行動に差異があるかみたところ、配偶者等「家族との相談」や「介護保険について調べた」などの準備行動は、「近い将来（2～3年のうち）介護が必要になると思う」人のほうが、「まだ親の介護が必要ないと思う」人よりも、やや多いものの、どちらとも、「何もしていない」「何も考えたことがない」との回答が半数であったが、（準備を）「する必要は感じているが、どうしたらよいか分からない」との回答も2割程度存在した。



親が現在介護の必要な状況にある人が今から振り返ってしておけばよかったと思われる行動と比較すると、介護保険関連についての情報収集が不十分である傾向がみられた。

(8) 親の介護が必要な状態になったときの相談先（複数回答）

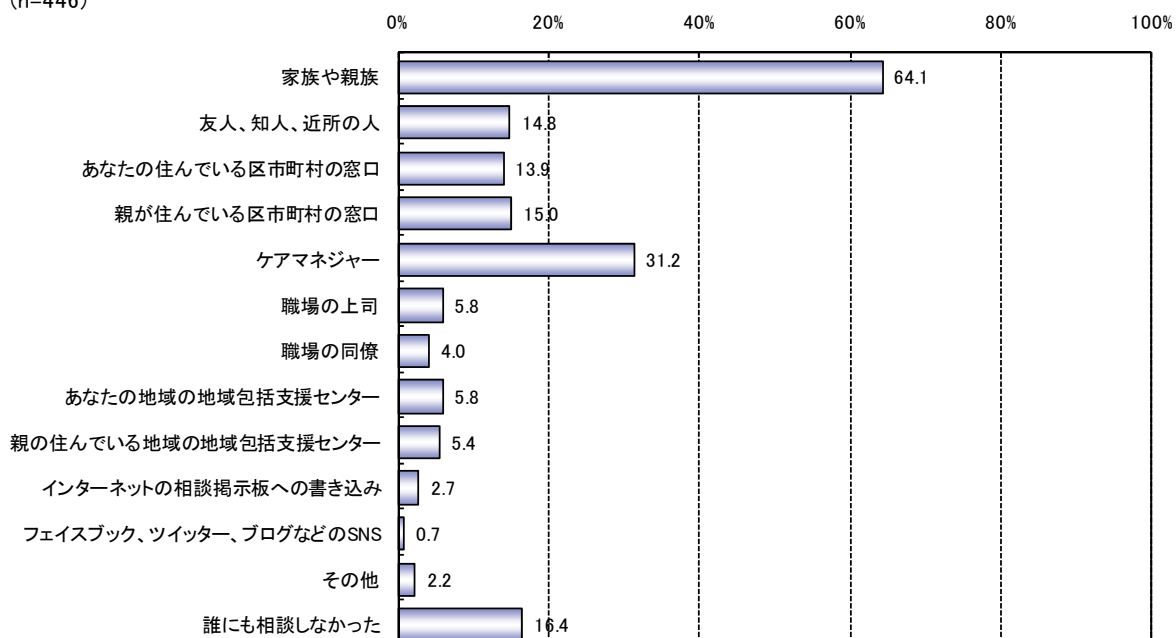
※親が現在介護の必要な状況にある人について

「親の介護が必要な状態になったときの相談先」で最も多かったのは、「家族や親族」であり、約6割であった。専門的な相談先では、「ケアマネジャー」が約3割であり、地域包括支援センターと回答した人は、自身の地域、親の住む地域とも6%未満であった。

【親の介護が必要な状態になったときの相談先】

[Q23]あなたもしくは配偶者の親の介護が必要な状態になったとき、あなたはどちらに相談をしましたか。
あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

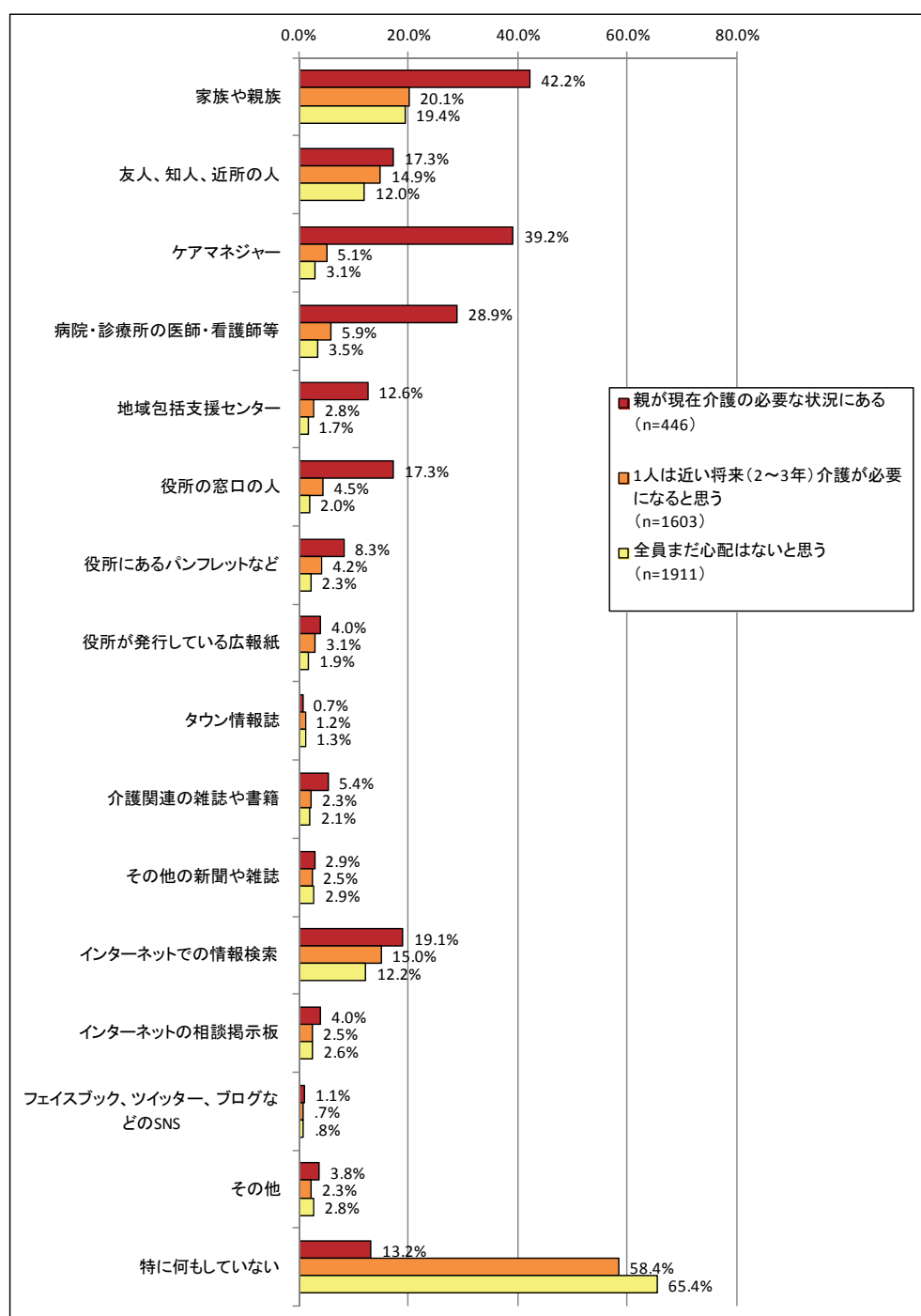
(n=446)



（９）介護についての情報源（複数回答）

介護についての情報源を親の介護状況別にみると、「親が現在介護の必要な状況にある」人について最も多かったのは、「家族や親族」であり続いて「ケアマネジャー」、「病院・診療所の医師・看護師等」であった。「インターネットでの情報検索」については、親の介護状況を問わず約２割を占めた（但し、本調査はインターネット調査であるため、ITの活用に通じた調査対象者であったことにも注意が必要である。）。

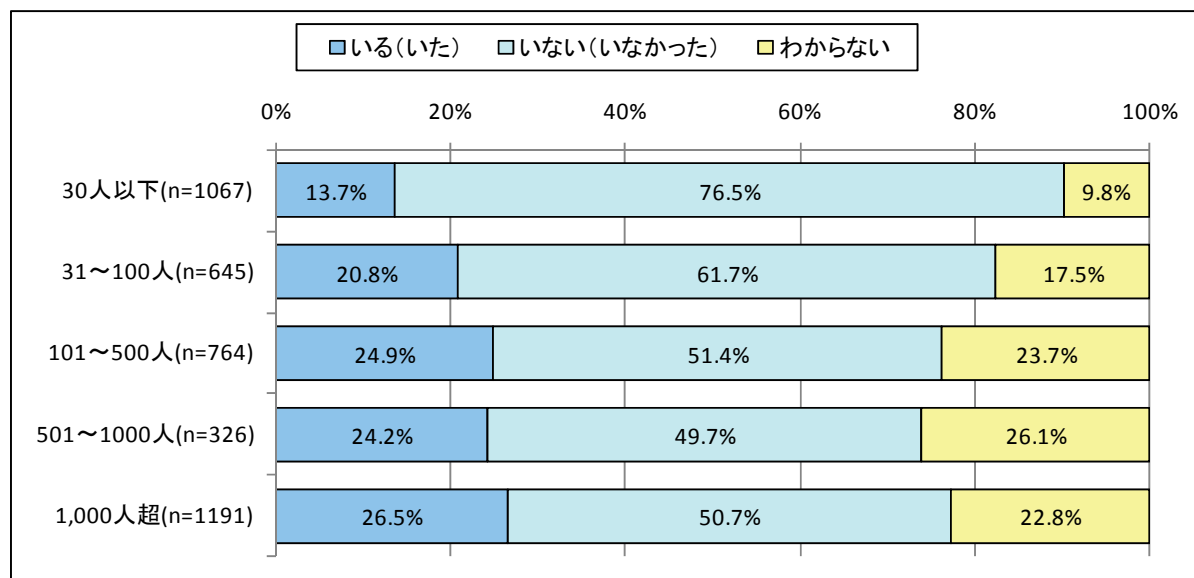
【親の介護状況別＊介護についての情報源】



(10) 介護で仕事を休む人の有無

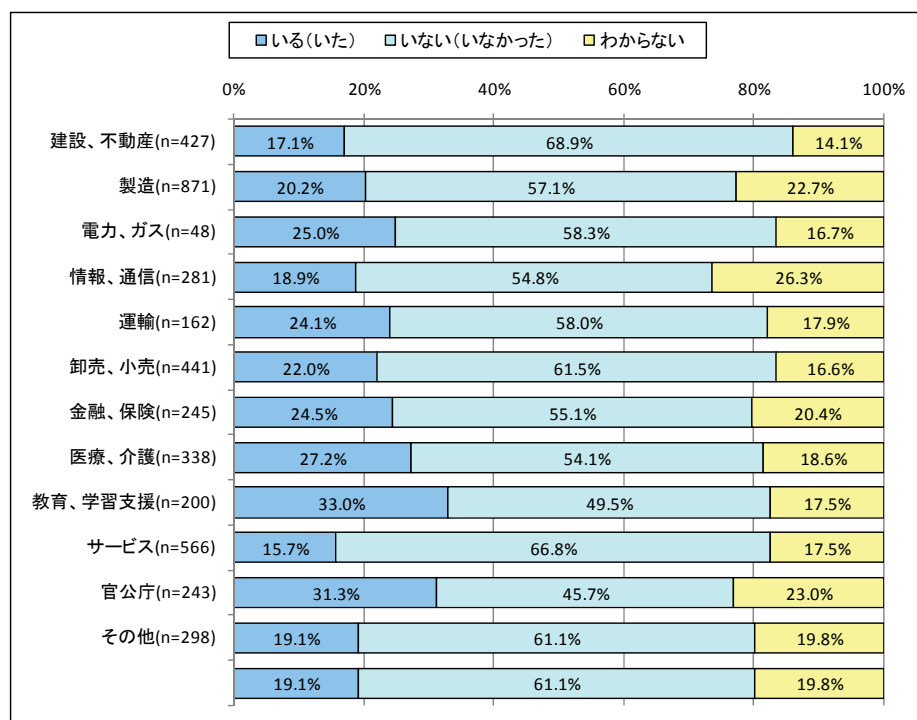
職場において介護を理由に仕事を休む人がいるかどうかを企業規模別でみると、「30人以下」の小規模企業では休む人がいるとの回答が約1割であり、中規模・大規模企業と比較して少なかった。

【企業規模別＊介護で仕事を休む人の有無】



業種別でみると、「サービス業」では介護を理由に仕事を休む人が「いる」との回答が他の業種と比較して少なかった。

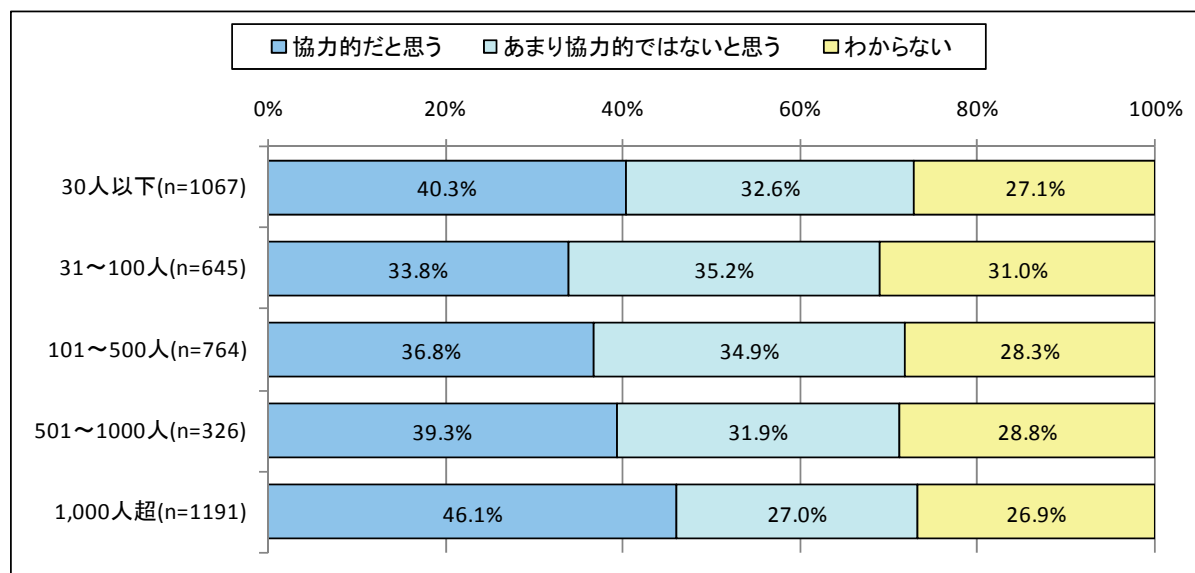
【業種別＊介護で仕事を休む人の有無】



（１１）介護で仕事を休むことについての職場の雰囲気

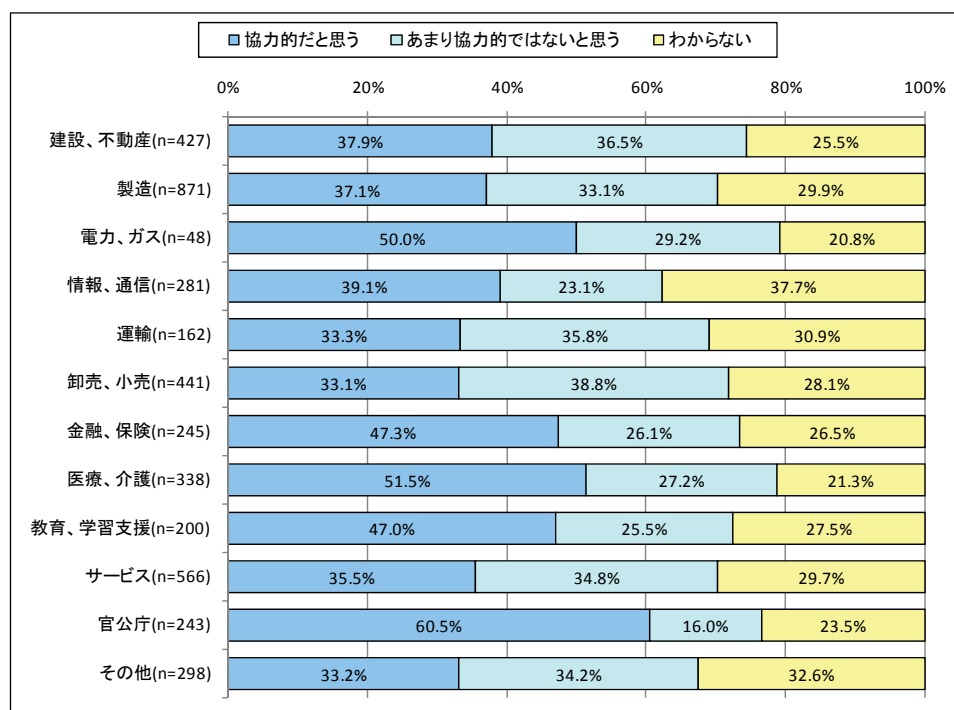
「介護で仕事を休むことについての職場の雰囲気」を企業規模別でみると、「協力的だと思う」と回答した人の割合がもっとも多かったのは「1,000 人超」の大規模企業であった。

【企業規模別＊介護で仕事を休むことについての職場の雰囲気】



業種別でみると、「協力的だと思う」と回答した人の割合がもっとも多かった業種は「官公庁」であり、続いて「医療・介護」、「電力・ガス」であった。

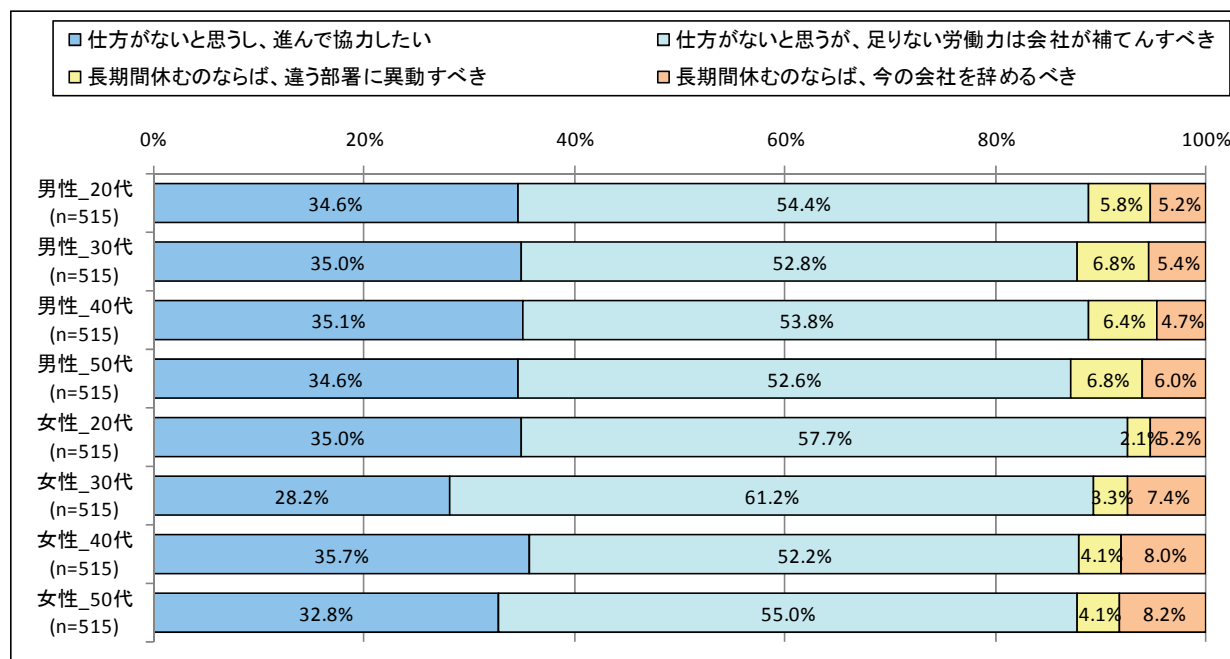
【業種別＊介護で仕事を休むことについての職場の雰囲気】



（１２）周囲に介護で長期間休む人がいて、あなたの業務にしわ寄せがあったときの気持ち

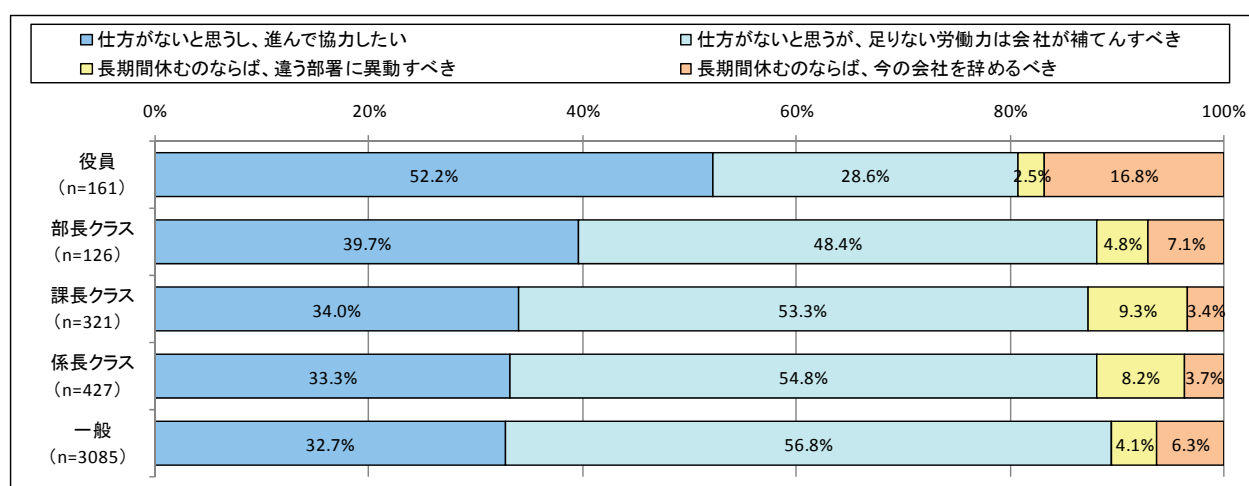
「周囲に介護で長期間休む人がいて、業務にしわ寄せがあったときの気持ち」を性別・年齢別でみると、あまり差異はみられなかった。

【性別・年齢別＊周囲に介護で長期間休む人がいて、業務にしわ寄せがあったときの気持ち】



職位別でみると、「長期間休むのならば今の会社を辞めるべき」との回答で最も多かった職位は「役員」であり約２割であった。他方、「違う部署に異動すべき」については、「課長クラス」と「係長クラス」での回答が多かった。

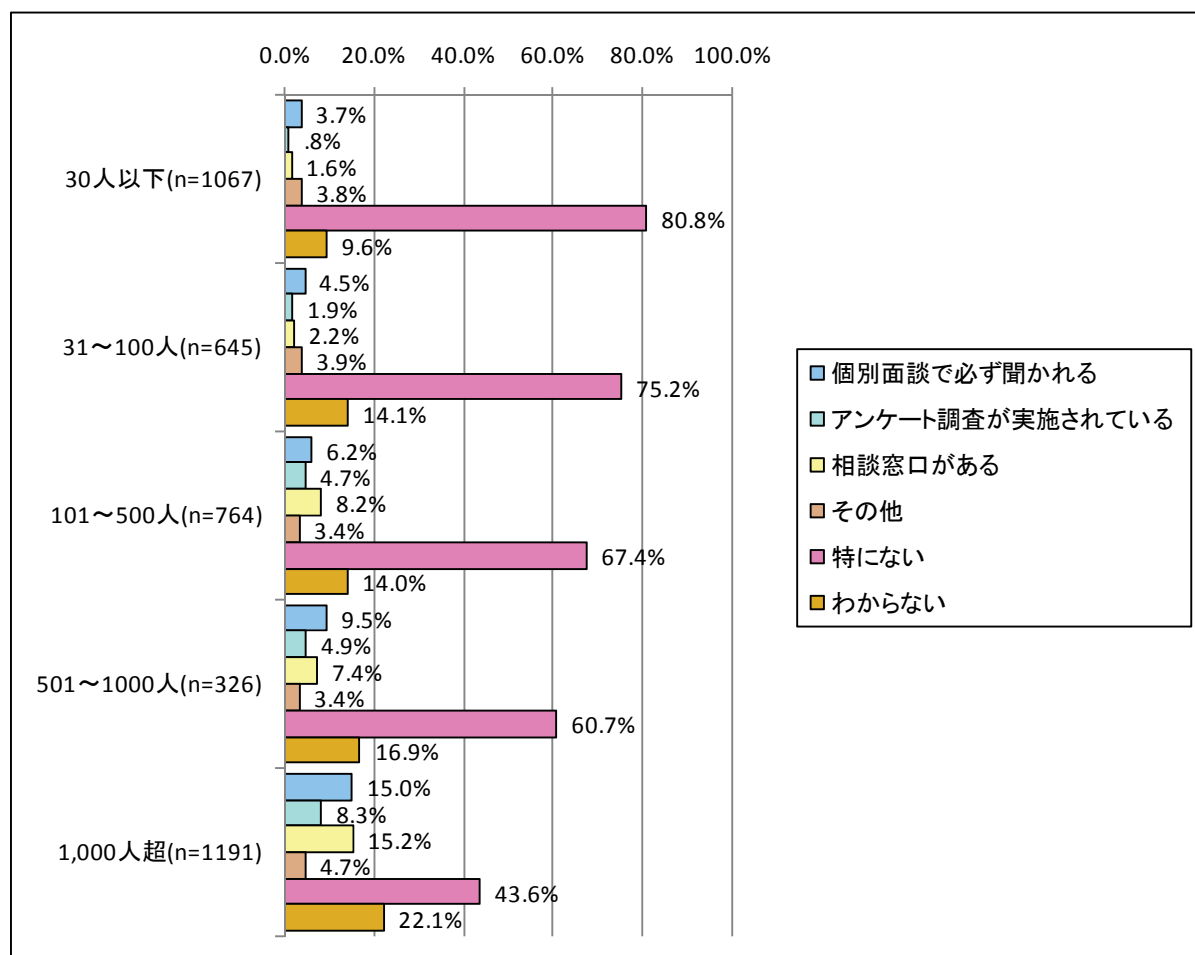
【職位別＊周囲に介護で長期間休む人がいて、業務にしわ寄せがあったときの気持ち】



（１３）職場における家族の介護についての把握状況（複数回答）

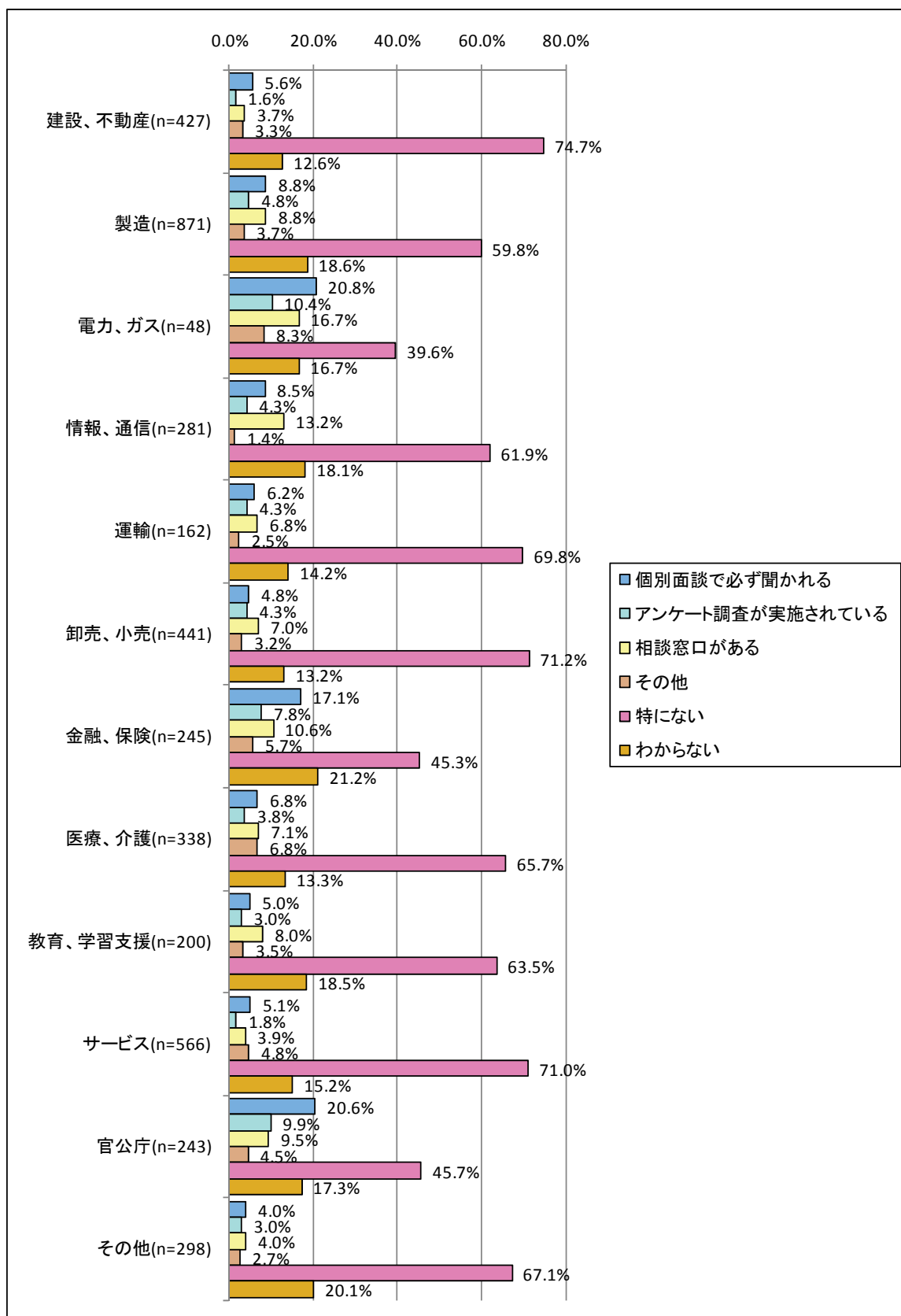
職場における家族の介護についての把握状況は、企業規模別でみると、「1,000 人超」の大規模企業では、小規模・中規模企業と比較して、「個別面談で必ず聞かれる」、「アンケート調査が実施されている」、「相談窓口がある」と回答した人の割合が多かった。

【企業規模別＊職場における家族の介護についての把握状況】



業種別でみると、「電力・ガス」、「金融・保険業」、「官公庁」では、他の業種と比較して、「個別面談で必ず聞かれる」、「アンケート調査が実施されている」、「相談窓口がある」と回答した人の割合が多かった。

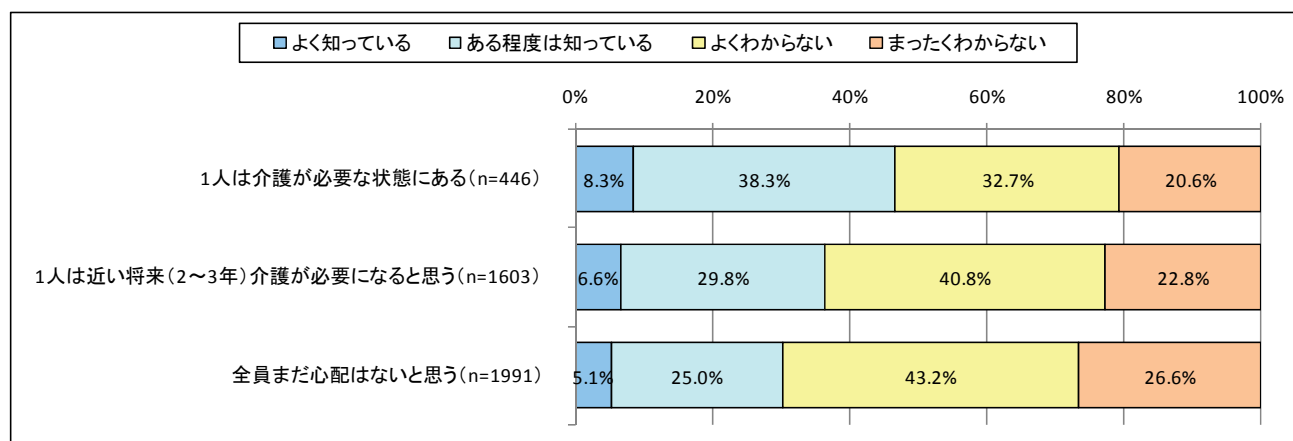
【業種別＊職場における家族の介護についての把握状況】



（１４）職場における家族を介護する際の休暇制度の認知度

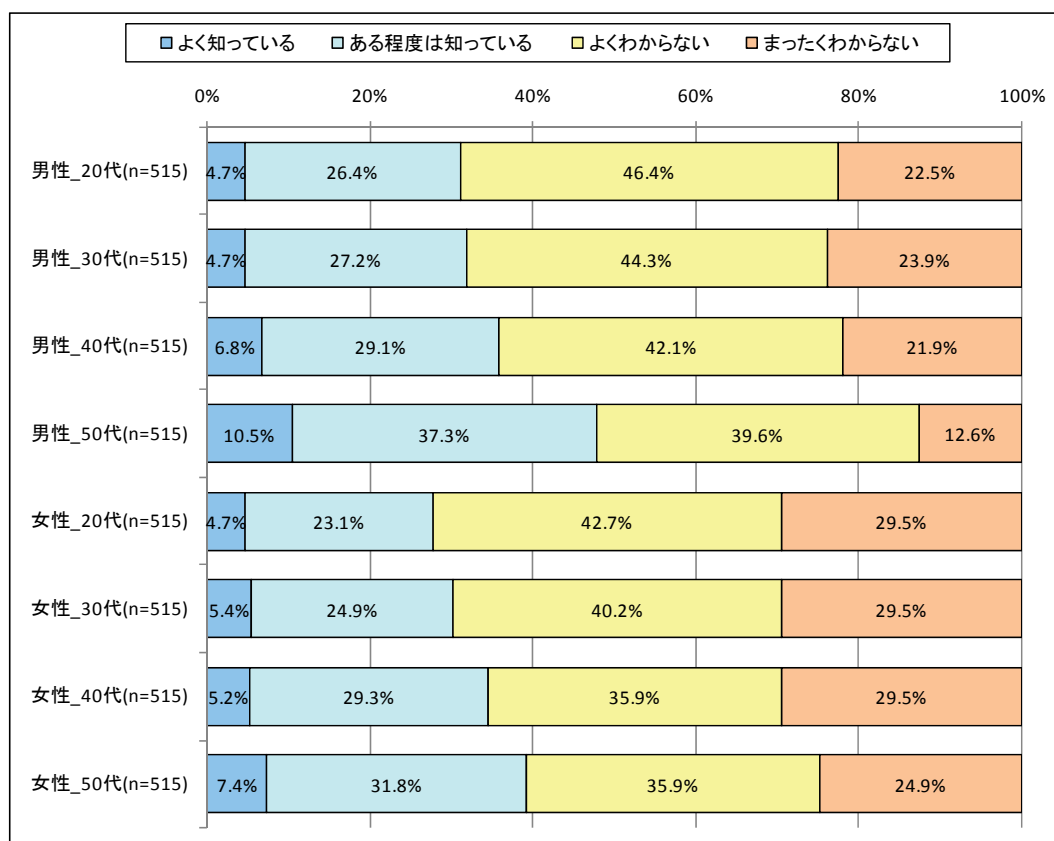
職場における家族を介護する際の休暇制度の認知度について尋ねた。親の介護状態別でみると、「よくわからない」「まったくわからない」との回答は、「全員まだ心配はないと思う」人で多かった。なお「1人は介護が必要な状態にある」人でも、「よく知っている」との回答は1割を下回った。

【親の介護状態＊職場における家族を介護する際の休暇制度の認知度】



【性別・年齢別＊職場における家族を介護する際の休暇制度の認知度】

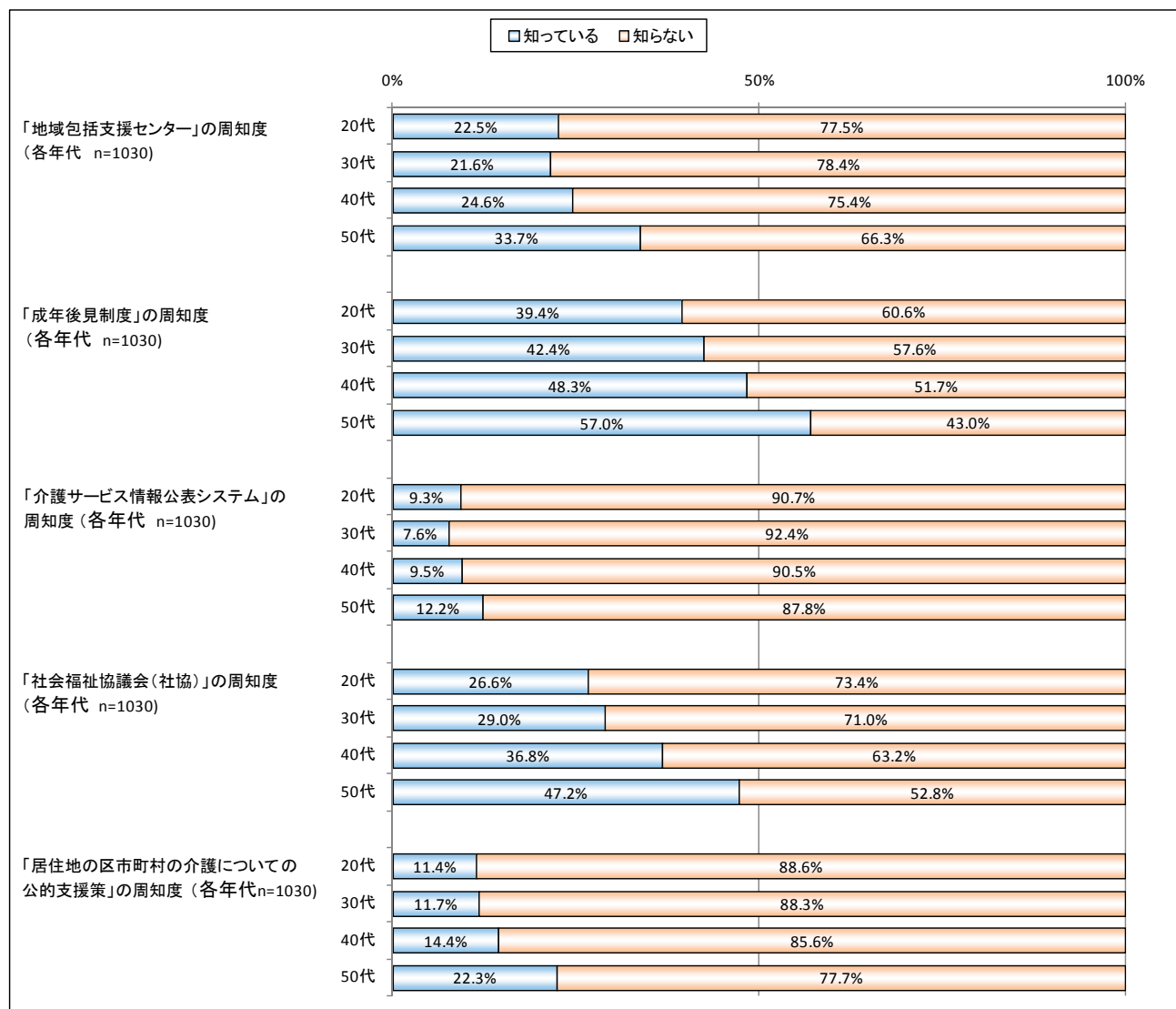
性別・年齢別でみると、「よく知っている」、「ある程度は知っている」と回答した人の割合は、男女ともに加齢に伴って増加していく傾向がみられた。



（１５）公的支援の認知度

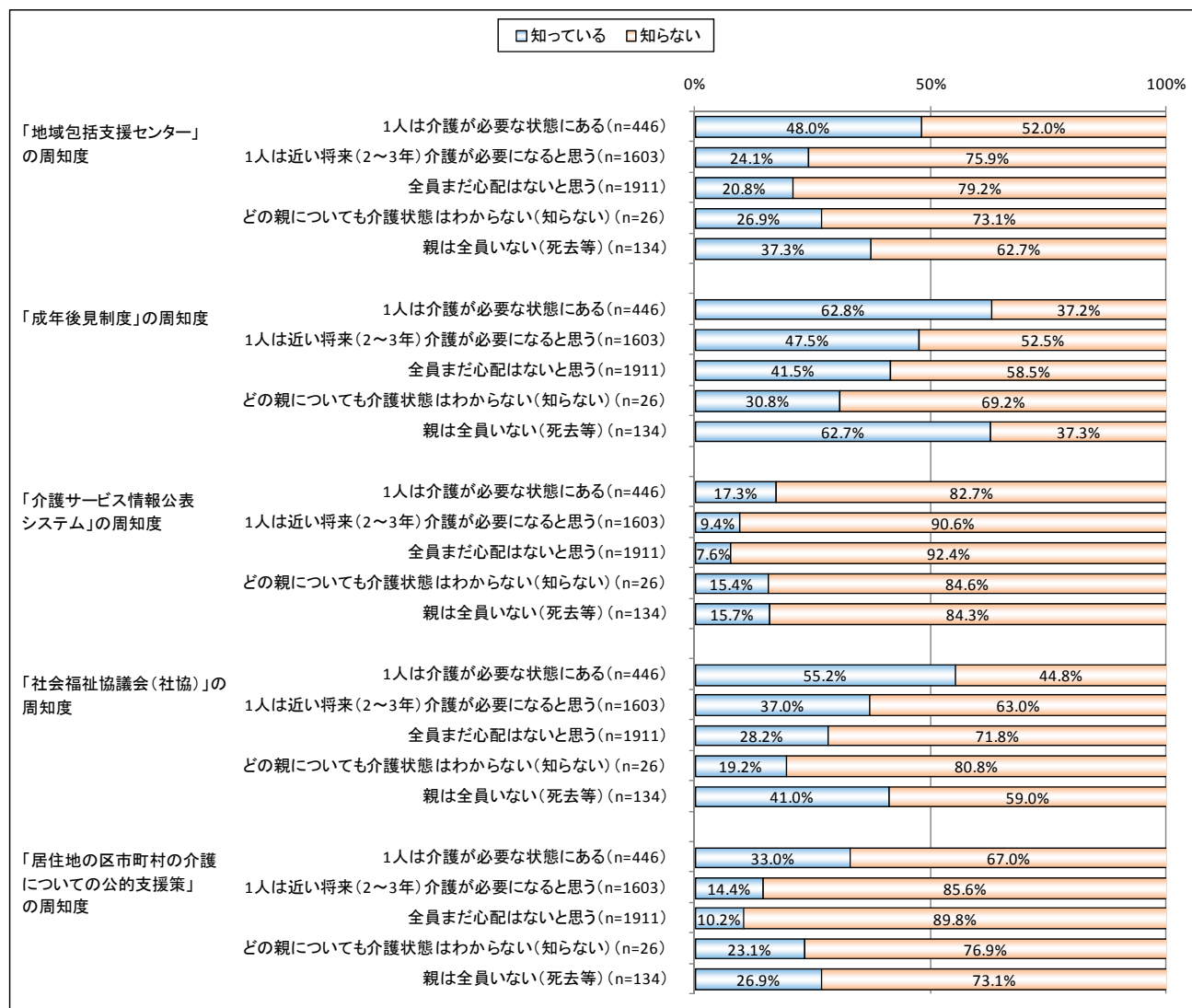
公的支援の認知度について尋ねた。年齢別の認知度をみると、「介護サービス情報公表システム」を除いた４つの項目については、加齢に伴って認知度が増加していく傾向がみられた。

【年齢別＊公的支援の認知度】



親の介護状況別の認知度をみると、「1人は介護が必要な状態にある」人は、5つの項目についていずれも認知度が高かった。

【親の介護状況＊公的支援の認知度】



（１６－１）仕事と介護の両立状況

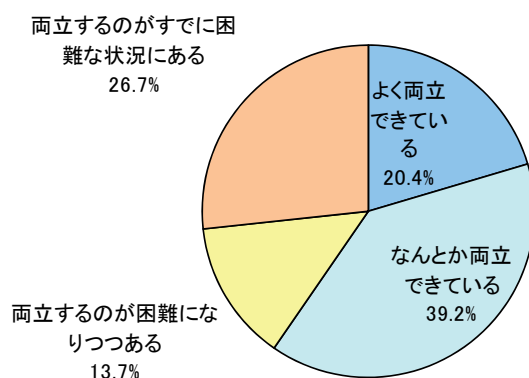
※親が現在介護の必要な状況にある人について

仕事と親の介護の両立状況について、「よく両立できている」、「なんとか両立できている」を合わせて約６割が仕事と親の介護を両立している「両立群」であった。他方、「両立するのが困難になりつつある」、「両立するのがすでに困難な状況にある」をあわせた「両立困難群」は約４割であった。

【仕事と親の介護の両立状況】

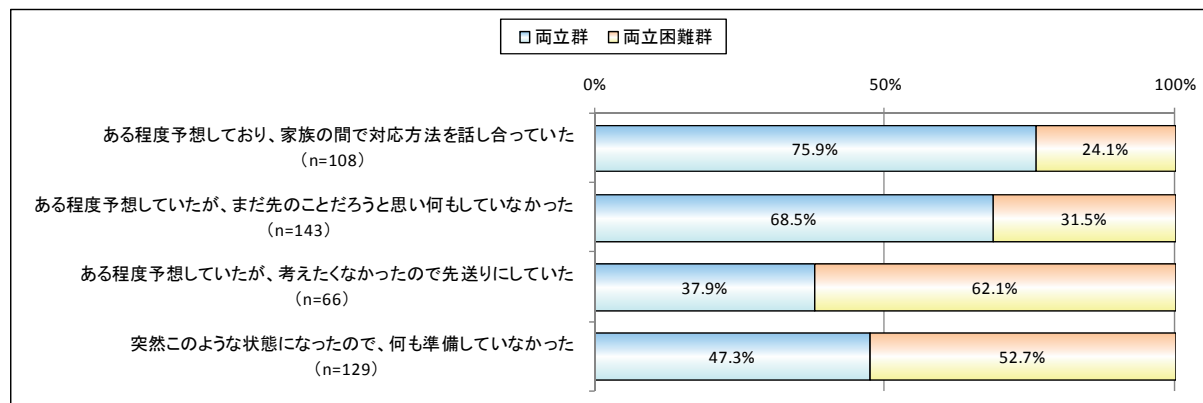
[Q19]あなたは現在の仕事と、親の介護をどれほど両立できていますか。
最もあてはまるものをお知らせください。

(n=446)



親を介護するようになるまでの準備状況別に、現在の仕事と介護の両立状況をみると、「ある程度予想しており、家族の間で対応方法を話し合っていた」と回答した人では約８割が「両立群」であり、「何もしていなかった」、「先送りにしていた」と回答した人と比較して「両立群」の割合が多かった。

【親を介護するようになるまでの準備状況＊仕事と親の介護の両立状況】



(16-2) 前問で「両立するのが困難になりつつある」「両立するのがすでに困難な状況にある」と回答した理由（複数回答）

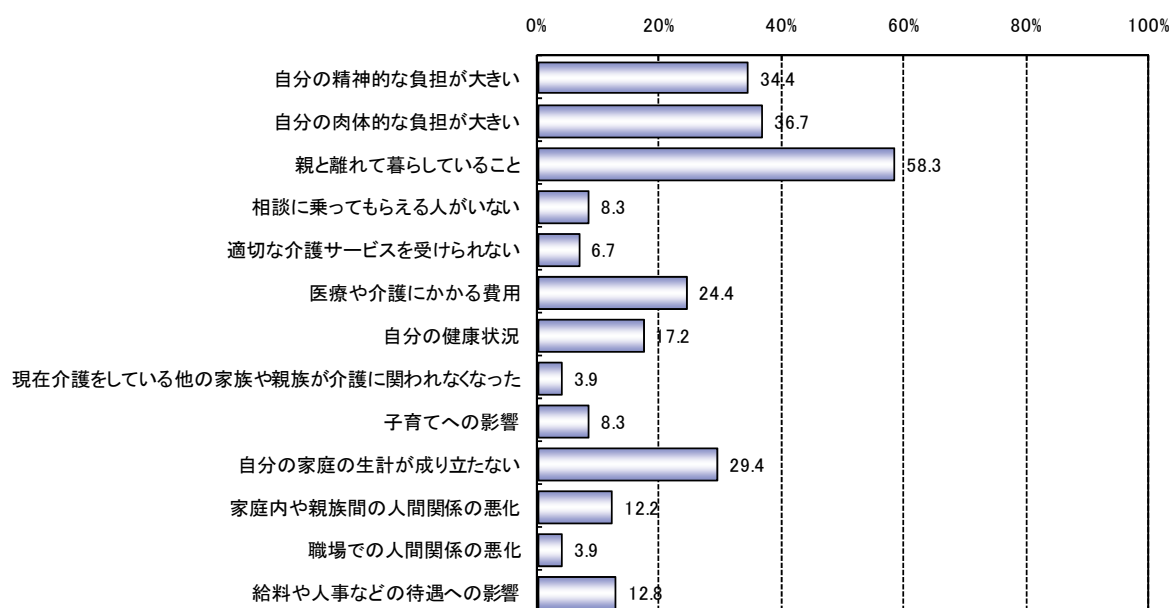
※親が現在介護の必要な状況にある人について

仕事と親の介護が両立困難な理由として最も多かったのは、「親と離れて暮らしていること」であり約6割であった。また「自分の家庭の生計が成り立たない」が約3割、「医療や介護にかかる費用」についても約2割が両立困難な理由であるとし、経済面での理由も提示された。

【仕事と親の介護の両立が困難な理由】

[Q20]前問で「両立するのが困難になりつつある」「両立するのが困難な状況にある」とお答えになった理由を、以下の中からすべてお知らせください。（いくつでも）
※この中であてはまるものがないという場合もこの中で比較してあてはまると思うものをお選びください。

(n=180)



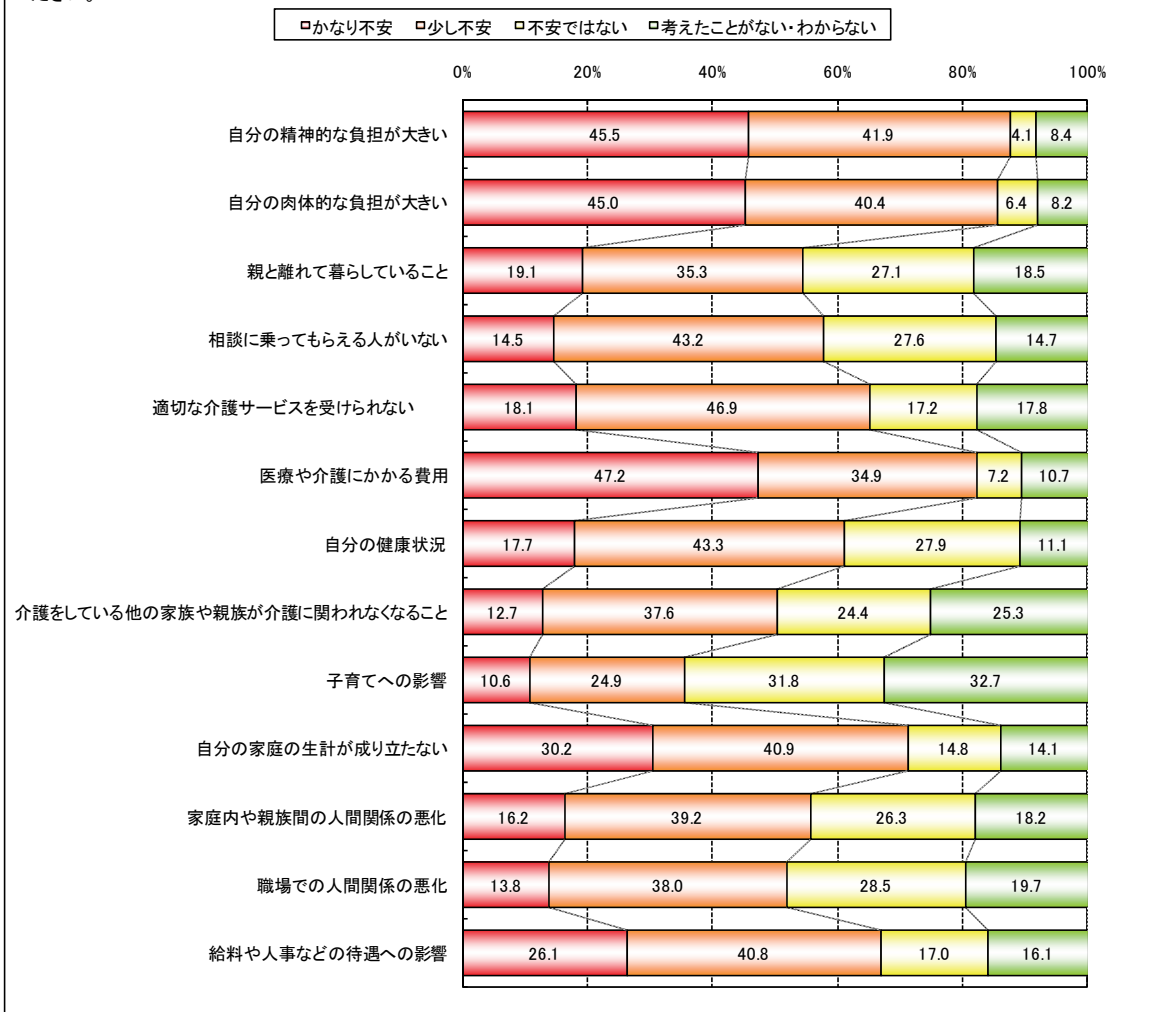
（１６－３）仕事と介護を両立していく上で不安だと思うこと

※近い将来（２～３年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人について

近い将来（２～３年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人に対して、仕事と介護を両立していく上での不安について尋ねた。（１６－２）と比較すると、「親と離れて暮らしていること」については、現に親の介護をしている人にとっては仕事と介護の両立困難理由の最上位に挙げられているが、まだ親の介護をしていない人にとっては、不安事項としての割合すら低かった。他方、「自分の精神的負担」・「肉体的な負担」や経済的な面については、介護状況にかかわらず、ともに大きな不安事項であった。

【仕事と介護を両立していく上で不安だと思うこと】

[Q32]あなたが仕事と介護を両立していく上で不安だと思うことを、以下のそれぞれについてお知らせください。



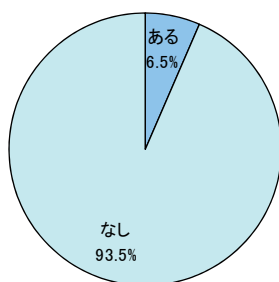
(17) 介護のために離転職した経験の有無 ※親が現在介護の必要な状況にある人について

過去に介護のために離転職したことがある人は1割を下回っていた。

【介護のために離転職した経験の有無】

[Q21]あなたは過去に介護のために離転職した経験はありますか。

(n=446)



サンプル数が少ないため参考程度であるが、「介護のために離転職の経験のある人」は「未経験の人」と比較すると20代・30代の若い年齢層が多く、現在非正規職員として働いている人の割合が多い。

※参考【介護による離転職経験別＊年齢】

			年齢				合計
			20代	30代	40代	50代	
介護のために 離転職した 経験のある 人	離転職の経 験がある	度数	6	5	7	11	29
		%	20.7%	17.2%	24.1%	37.9%	100.0%
	離転職の経 験はない	度数	22	40	117	238	417
		%	5.3%	9.6%	28.1%	57.1%	100.0%
合計		度数	28	45	124	249	446
		%	6.3%	10.1%	27.8%	55.8%	100.0%

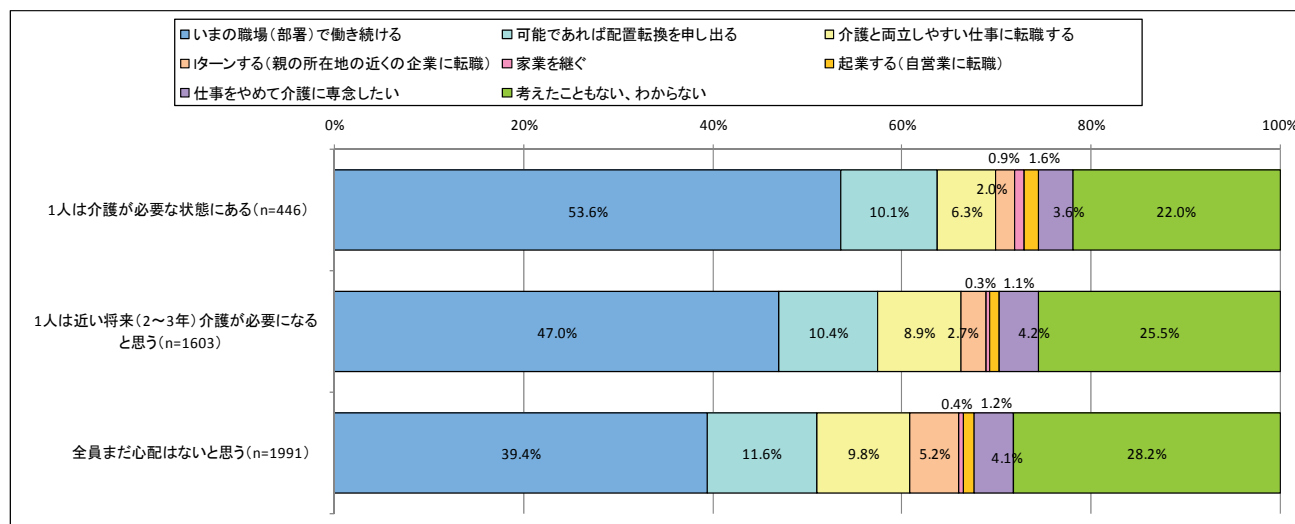
※参考【介護による離転職経験別＊雇用形態】

			雇用形態		合計
			正規職員	非正規職員 (臨時職員、嘱託職員、契約社員等)	
介護のために 離転職した 経験のある人	離転職の経験がある	度数	22	7	29
		%	75.9%	24.1%	100.0%
	離転職の経験はない	度数	365	52	417
		%	87.5%	12.5%	100.0%
合計		度数	387	59	446
		%	86.8%	13.2%	100.0%

（１８）介護をしながら今の仕事を続けることについて

介護をしながら今の仕事を続けることについて尋ねた。親の介護状況別でみると、「1人は介護が必要な状態にある」人では、「いまの職場（部署）で働き続ける」と回答した人は過半数を占めた。また「仕事をやめて介護に専念したい」と回答した人は極めて少なかった。他方全体的に、少数ながら「Iターン」、「家業を継ぐ」、「起業する（自営業に転職）」と回答した人も存在した。

【親の介護状況別＊介護をしながら今の仕事を続けることについて】



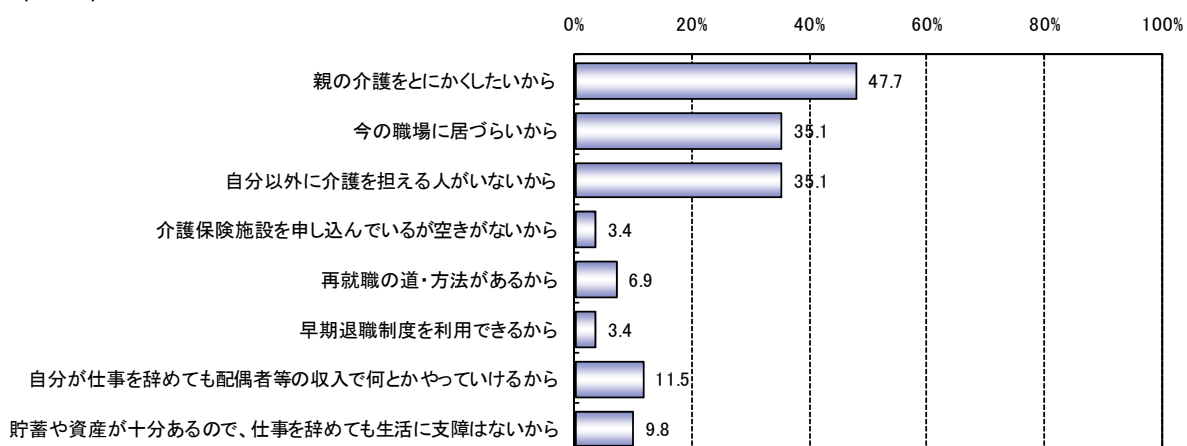
（１９）前問で「仕事をやめて介護に専念したい」と回答した理由（複数回答）

仕事をやめて介護に専念したい理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「親の介護をとにかくしたい」であり約５割であった。「続いて今の職場に居づらい」、「自分以外に介護を担える人がいない」で、それぞれ約４割であった。また「自分が仕事を辞めても配偶者等の収入で何とかやっていける」、「貯蓄や資産が十分あるので、仕事を辞めても生活に支障はない」と回答した人もそれぞれ約１割存在した。

【仕事をやめて介護に専念したい理由】

[Q34]前問で「仕事をやめて介護に専念したい」とお答えになった理由を、以下の中からすべてお知らせください。（いくつでも）
※この中であてはまるものがないという場合もこの中で比較してあてはまると思うものをお選びください。

(n=174)

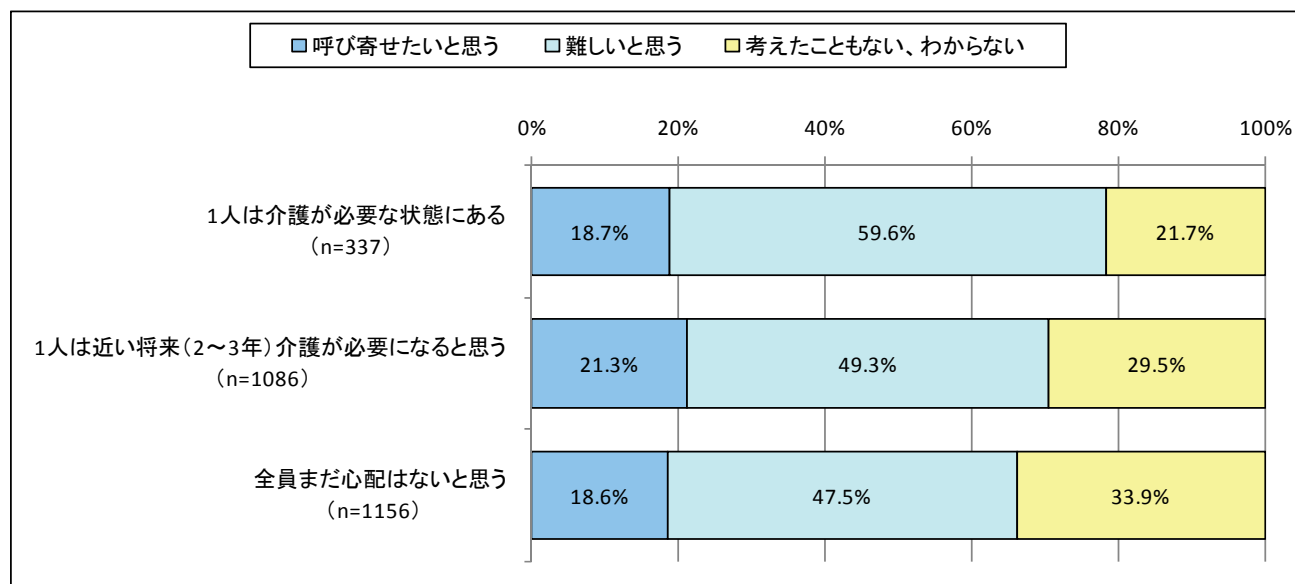


（２０）呼び寄せ介護について

※現在電車などで 30 分程度以上かかる場所に居住している親について

親を自分の居住地に呼び寄せて介護をすることについての意向を尋ねた。「呼び寄せたいと思う」と回答した人は親の介護状況を問わず約 2 割程度と少なく、「難しいと思う」と回答した人がほぼ半数であった。親の介護状況別で、呼び寄せ介護の意向についての差異はみられなかった。

【親の介護状況別＊呼び寄せ介護について】



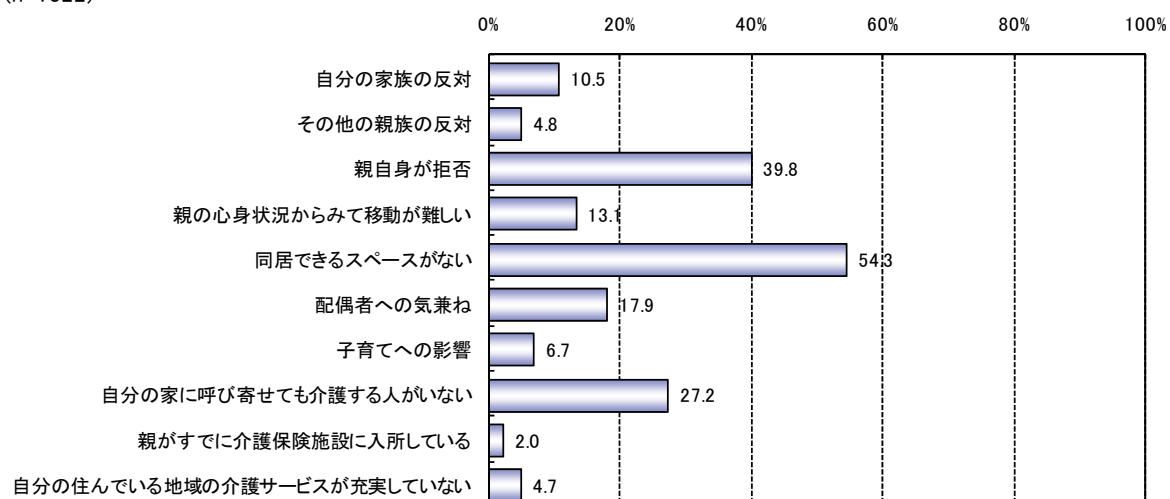
（２１）呼び寄せ介護が難しいと思う（思われる）理由（複数回答）

呼び寄せ介護が難しい理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「同居できるスペースがない」であり約５割であった。続いて「親自身が拒否」（約４割）、「自分の家に呼び寄せても介護する人がいない」（３割弱）であった。

【呼び寄せ介護が難しい理由】

[Q36]呼び寄せ介護が難しいと思う(思われる)理由を、以下の中からすべてお選びください。(いくつでも)
※この中であてはまるものがないという場合もこの中で比較してあてはまると思うものをお選びください。

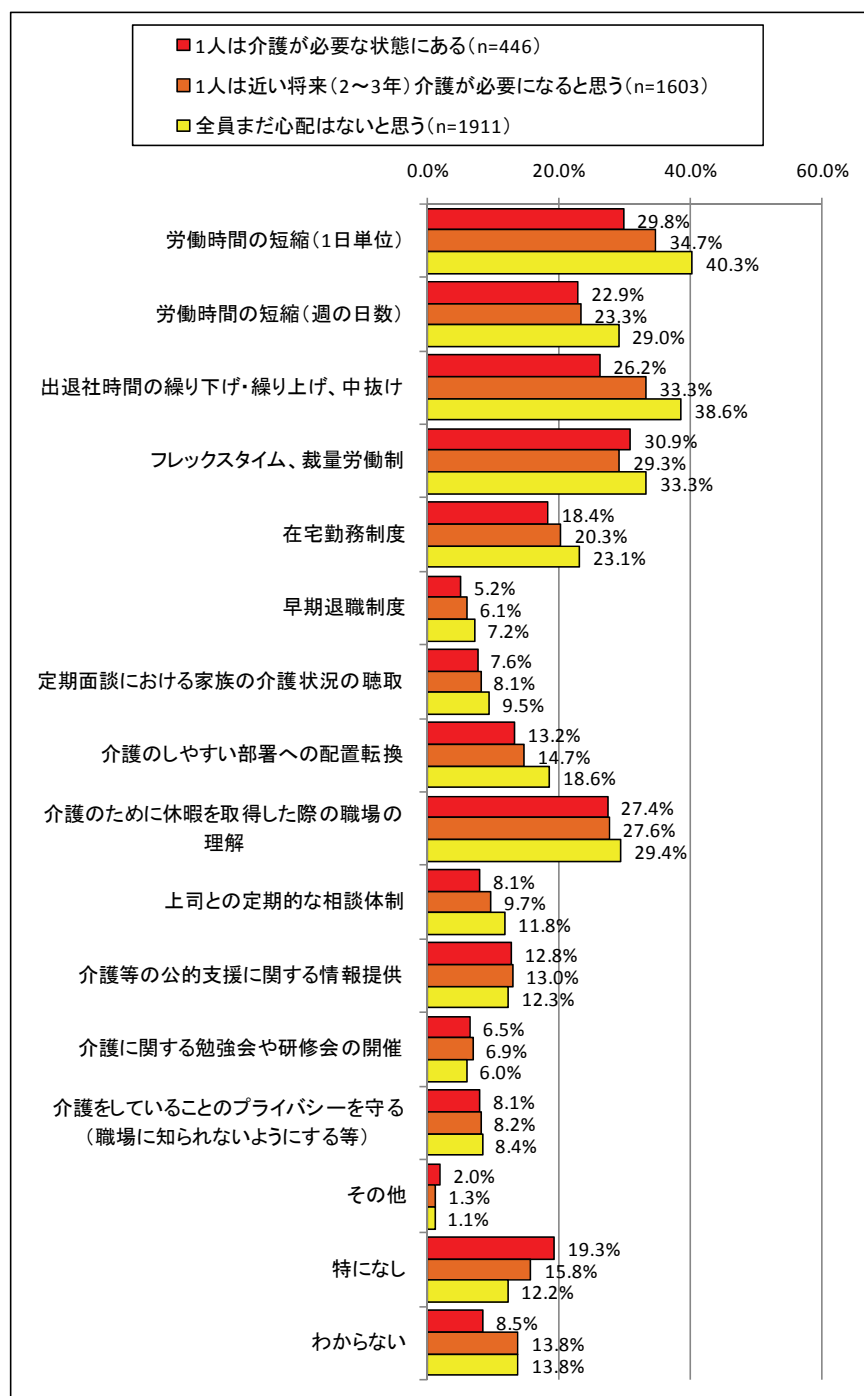
(n=1322)



（２２）仕事と介護の両立のために、職場で取組んでほしいこと（複数回答）

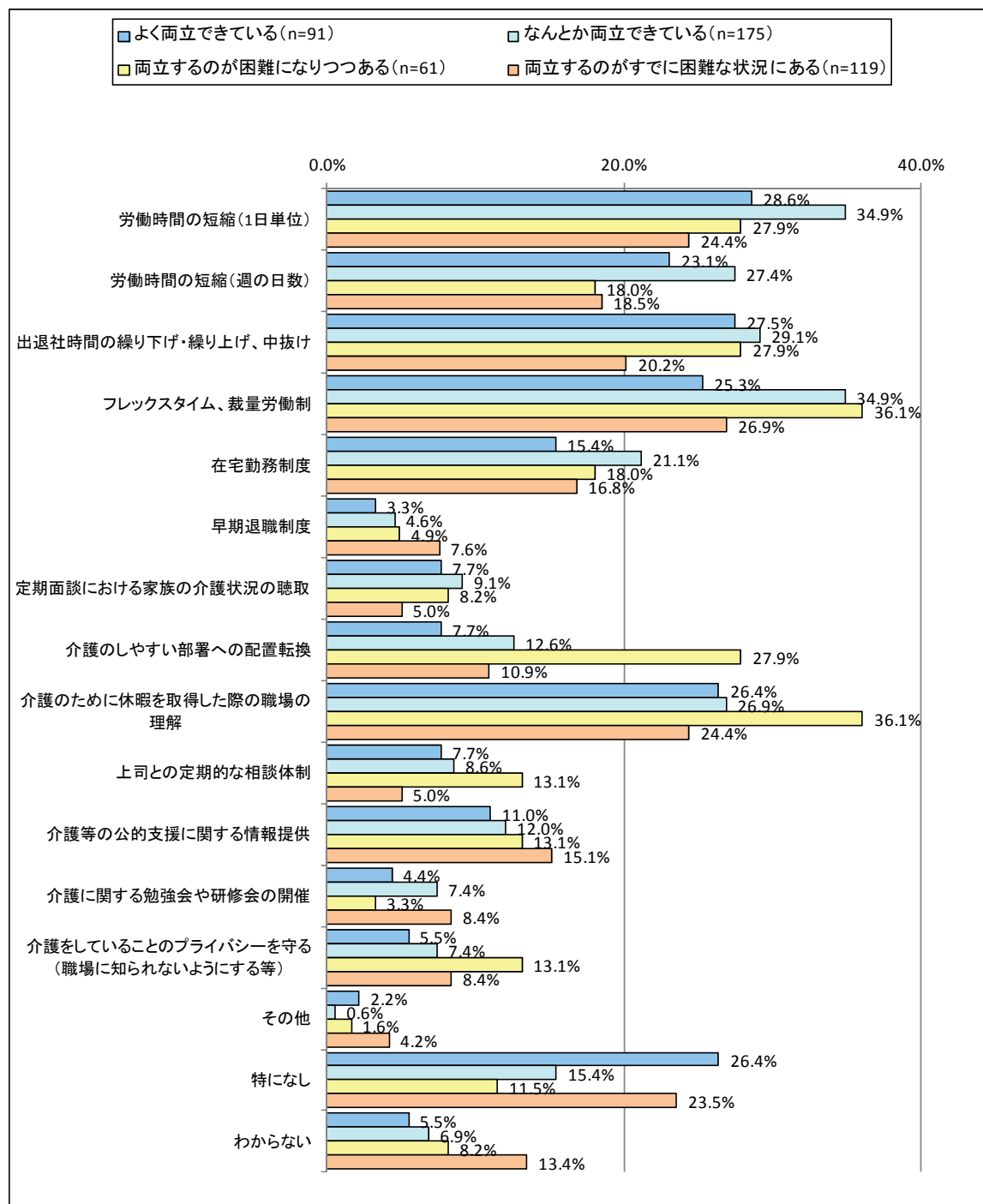
仕事と介護の両立のために職場で取組んでほしいことを、親の介護状況別にみると、「労働時間の短縮（１日単位）」、「出退社時間の繰り下げ・繰り上げ、中抜け」、「フレックスタイム、裁量労働制」等の働き方についての要望は、親の介護は「全員まだ心配はない」人のほうが多い割合であった。そのことの裏返しとして、職場に取組んでほしいことは「特になし」との回答は、「介護が必要な状態にある」人が他と比較してやや多かった。

【親の介護状況別＊仕事と介護の両立のために職場で取組んでほしいこと】



現在親の介護が必要な状況にある人の仕事と介護の両立状況別に、職場で取組んでほしいことをみた。「両立するのが困難になりつつある」人では、「出退社時間の繰り下げ・繰り上げ、中抜け」、「フレックスタイム、裁量労働制」といった労働時間の柔軟性への要望が多かった。また「介護のしやすい職場への配置転換」や「介護のために休暇を取得した際の職場の理解」が他に突出して多い割合であった。他方、「職場に取組んでほしいことが特にない」人は、「よく両立できている」と「両立するのが困難な状況にある」別れる傾向がみられた。

【仕事と介護の両立状況別 * 仕事と介護の両立のために職場で取組んでほしいこと】



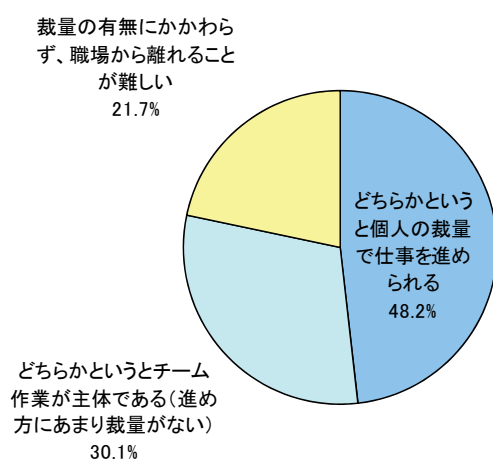
（２３）仕事の仕方のタイプ

回答者に現在の仕事の仕方を尋ねたところ、「どちらかという個人の裁量で仕事を進められる」は約５割で最も多かった。「どちらかというチーム作業が主体である（進め方に裁量がない）」は約３割、「裁量の有無にかかわらず、職場から離れることが難しい」は約２割であった。

【仕事の仕方のタイプ】

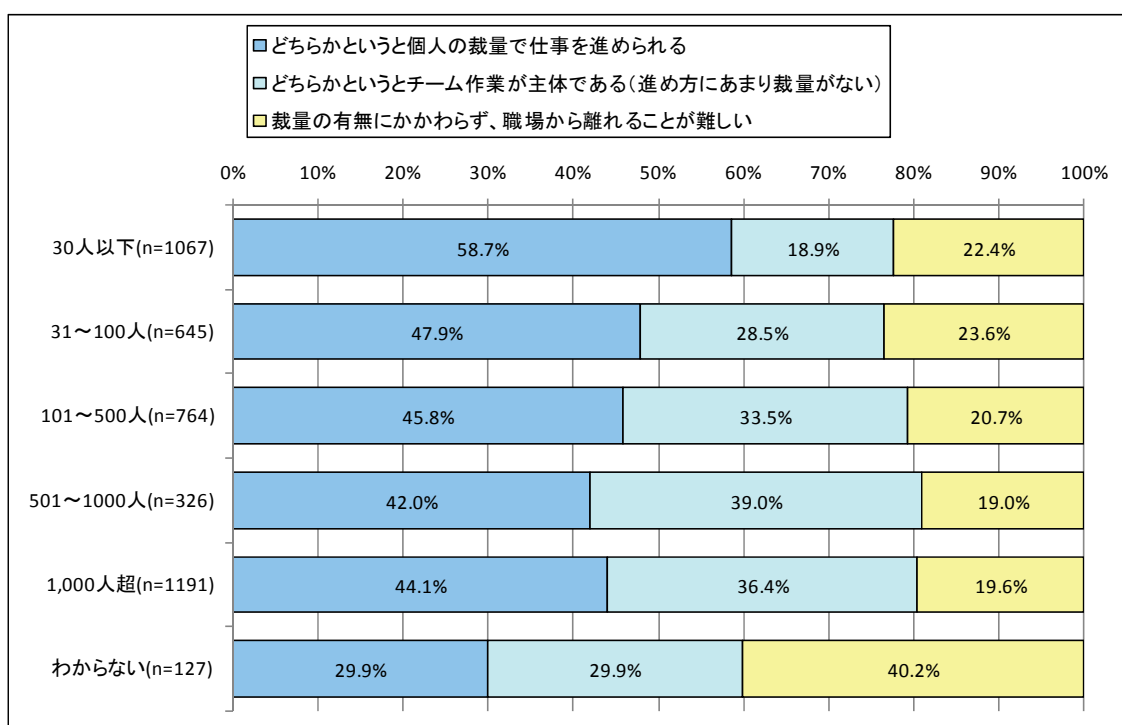
[Q41]あなたの仕事の仕方はどちらかというどのようなタイプですか。

(n=4120)



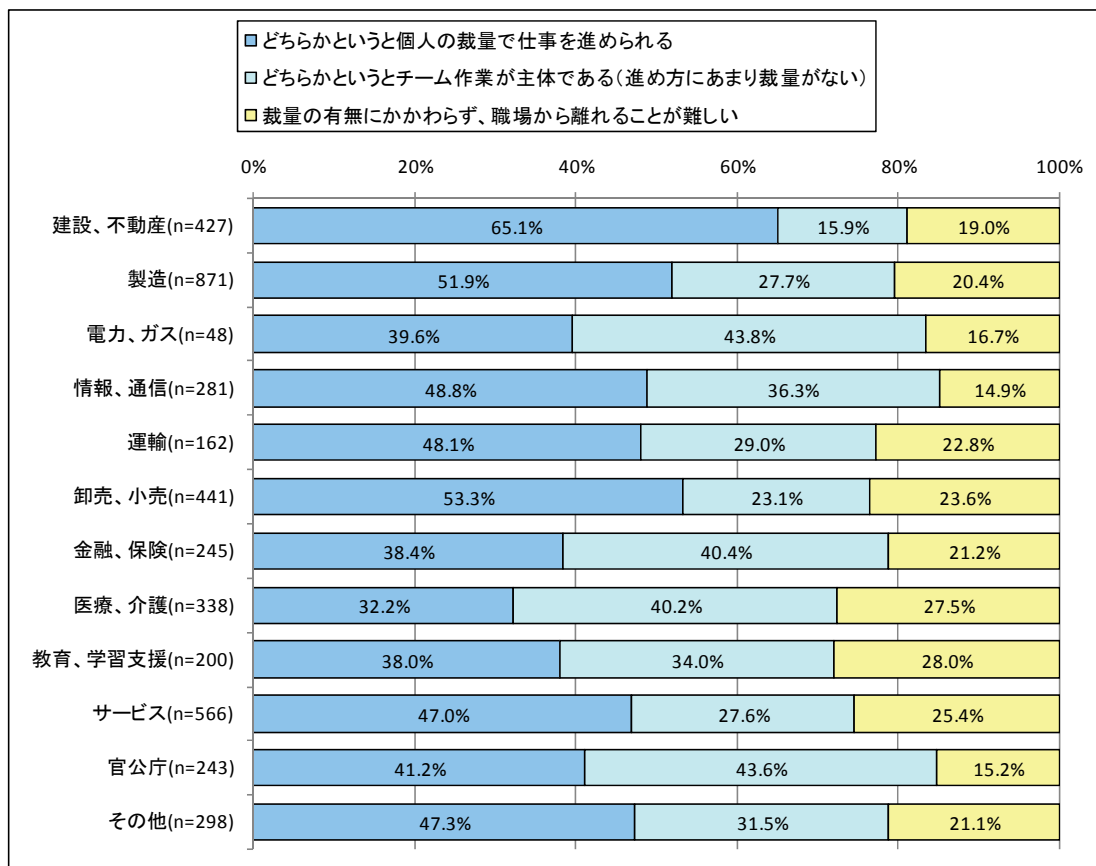
【企業規模別＊仕事の仕方のタイプ】

企業規模別でみると、企業規模が大きくなるに連れて、「どちらかというチーム作業が主体である」が多い傾向がみられた。



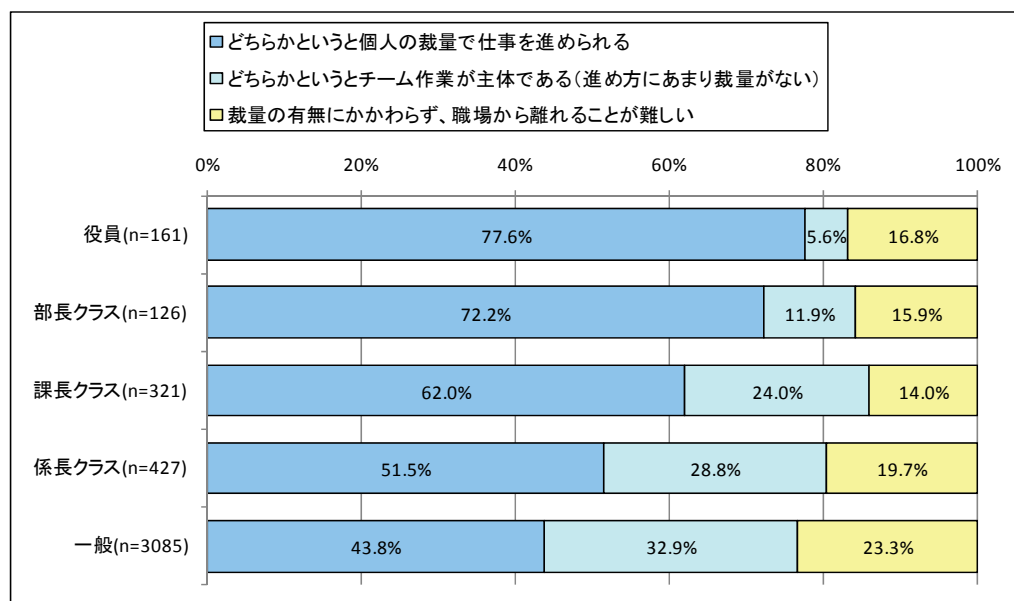
業種別でみると、「どちらかという個人で裁量で仕事を進められる」が多かったのは、「建設・不動産業」が最も多く、続いて「卸売・小売業、製造業」であった。

【業種別 * 仕事の仕方のタイプ】



【職位別 * 仕事の仕方のタイプ】

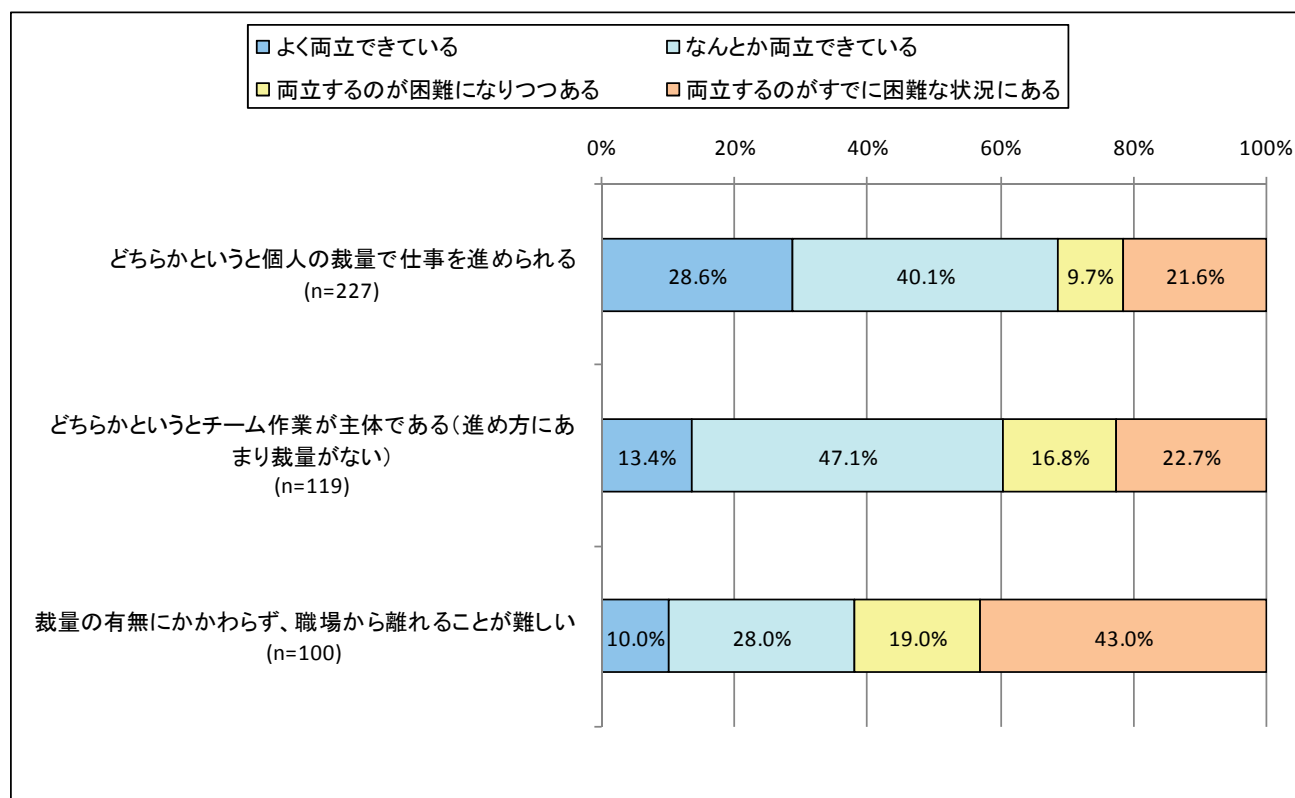
職位別でみると、「どちらかという個人の裁量で仕事を進められる」については、職位が上がるに連れ増える傾向がみられた。



現在親が介護の必要な状態にある人に対して、仕事の仕方のタイプ別に仕事と介護の両立状況をみた。「仕事と介護をよく両立できている」と「なんとか両立できている」を合わせた「両立群」は、「どちらかというと個人の裁量で仕事を進められる」で多く約7割であった。他方、「裁量の有無にかかわらず、職場から離れることが難しい」については約4割が「両立するのがすでに困難な状況にある」と回答した。

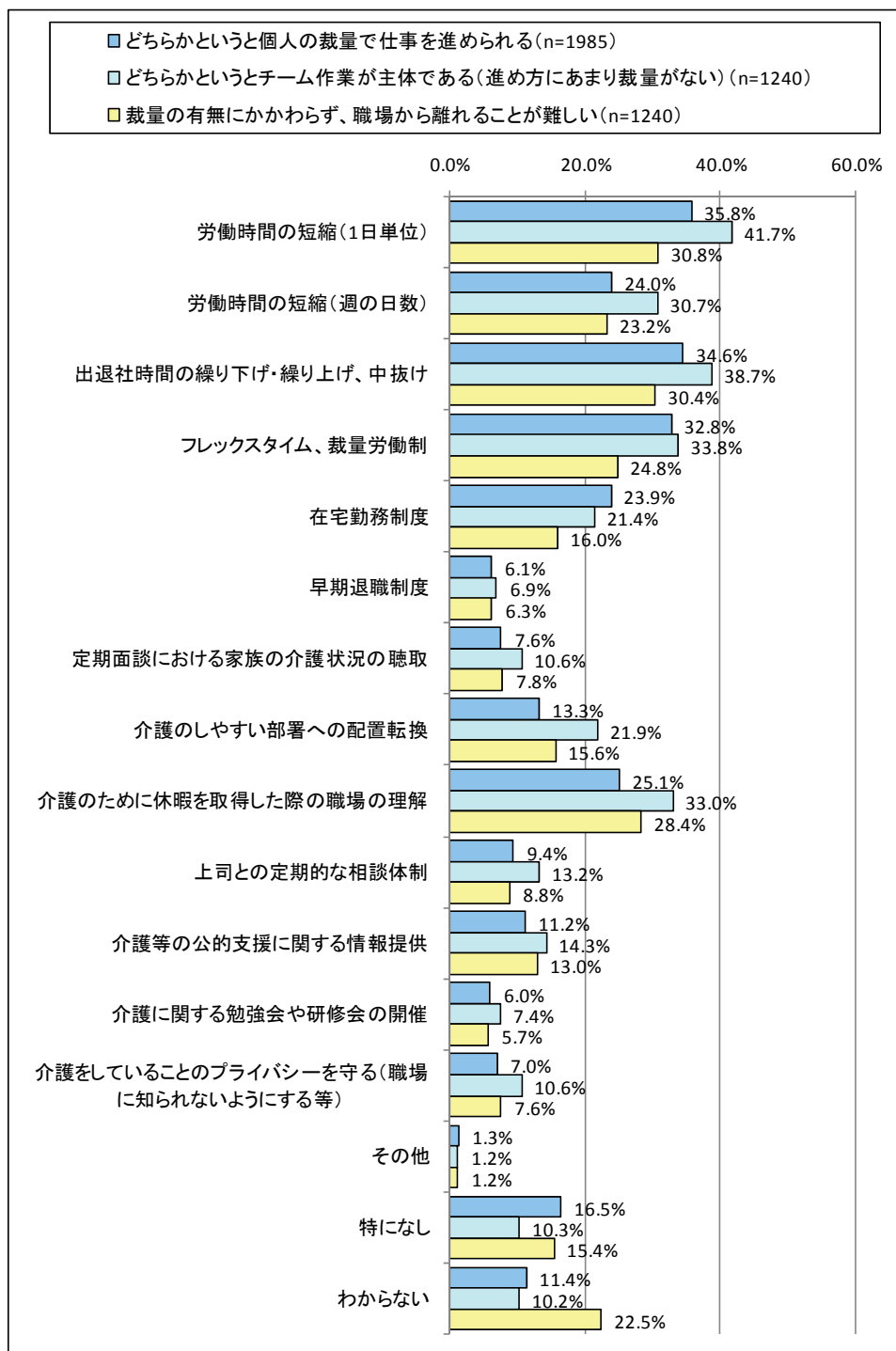
【仕事の仕方のタイプ別＊仕事と介護の両立状況】

※親が現在介護の必要な状態にある人



仕事と介護の両立のために職場で取組んでほしいことについて、仕事の仕方のタイプ別にどのような差異があるかみた。「どちらかというとチーム作業が主体である（進め方にあまり裁量がない）」人は、「労働時間の短縮（1日単位）」、「労働時間の短縮（週の日数）」、「出退社時間の繰り下げ・繰り上げ、中抜け」、「フレックスタイム、裁量労働制」等の働き方の柔軟性への要望が多かった。さらに介護のために休暇を取得した際の職場の理解も他の仕事の仕方のタイプと比較して多かった。

【仕事の仕方のタイプ別＊仕事と介護の両立のために職場で取組んでほしいこと】



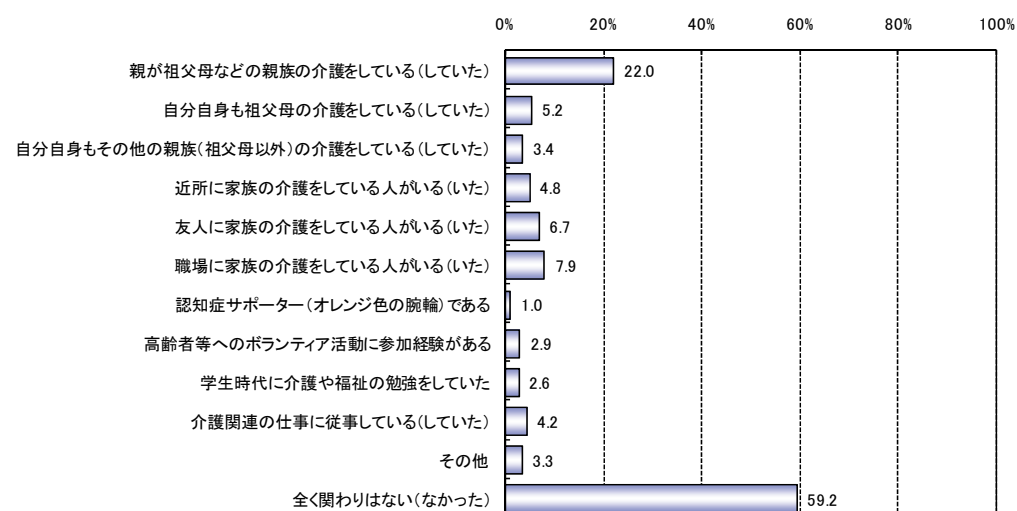
（２４）今までのあなた自身の介護との関わり（経験）（複数回答）

回答者に、今までの介護との関わり（経験）を尋ねたところ、「全く関わりはない（なかった）」との回答が約 6 割であり、残りの 4 割は何らかの介護との関わりを有していた。関わりの中で最も多かったことは「親が祖父母などの親族の介護をしている（していた）」であり約 2 割であった。なお参考までに性別と年齢別でみても、ほぼ同様の傾向であった（特に差異はみられなかった）。

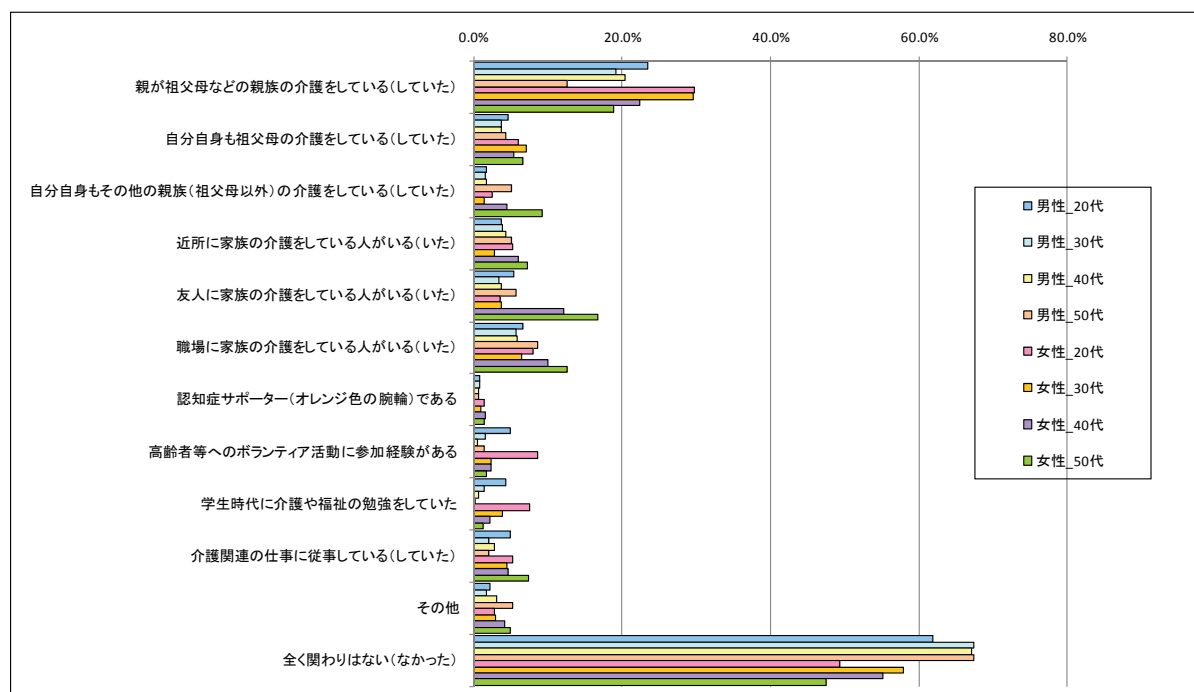
【介護との関わり】

[Q42]今までのあなた自身の介護との関わり（経験）はどうですか。
あてはまるものをすべてお選びください。（いくつでも）

(n=4120)



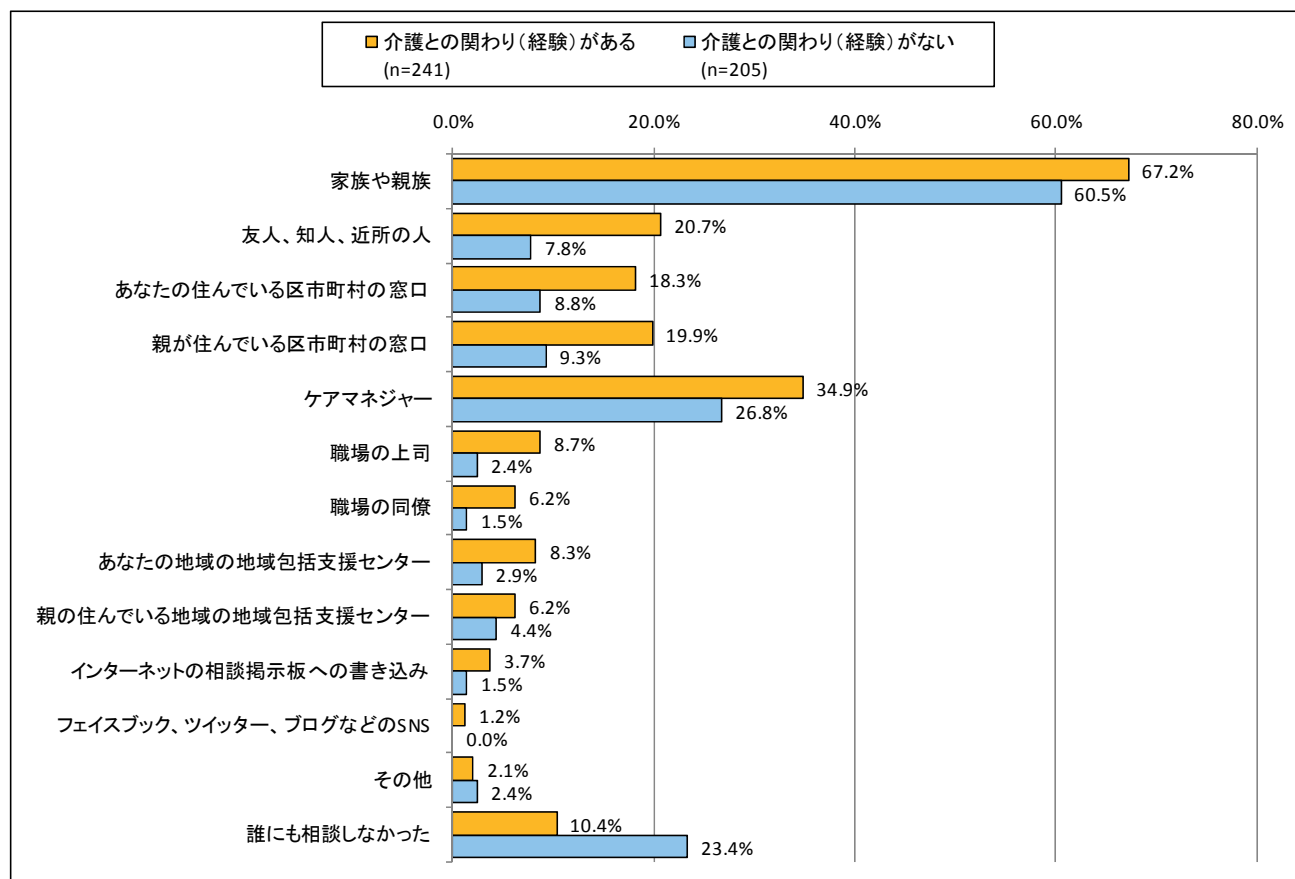
※参考【性別・年齢別＊介護との関わり】



現在親が介護の必要な状態にある人に対して、介護経験別に親の介護が必要になったときの相談先をみたところ、「過去に介護との関わり（経験）があった」人のほうが、公的・私的を問わず、さまざまな機関や人に相談をより多く持ちかけていた。

【介護との関わり（経験）別＊親の介護が必要になったときの相談先】

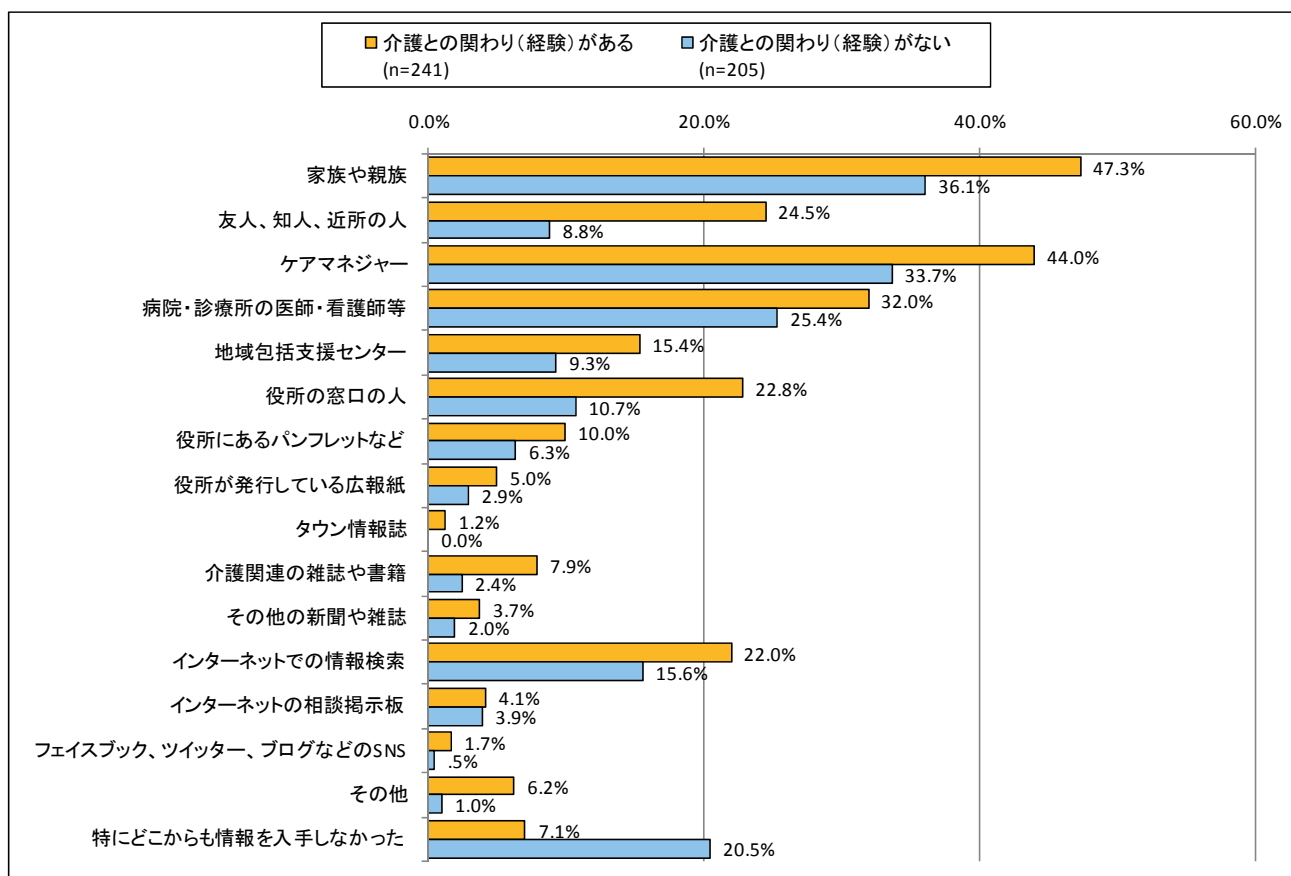
※親が現在介護の必要な状態にある人を対象



親が現在介護の必要な状態にある人に対して、介護経験別に介護についての情報源をみたところ、「過去に介護との関わり（経験）があった」人のほうが、公的・私的を問わず、さまざまな機関や人からより多く情報を収集していた。

【介護との関わり（経験）別＊介護についての情報源】

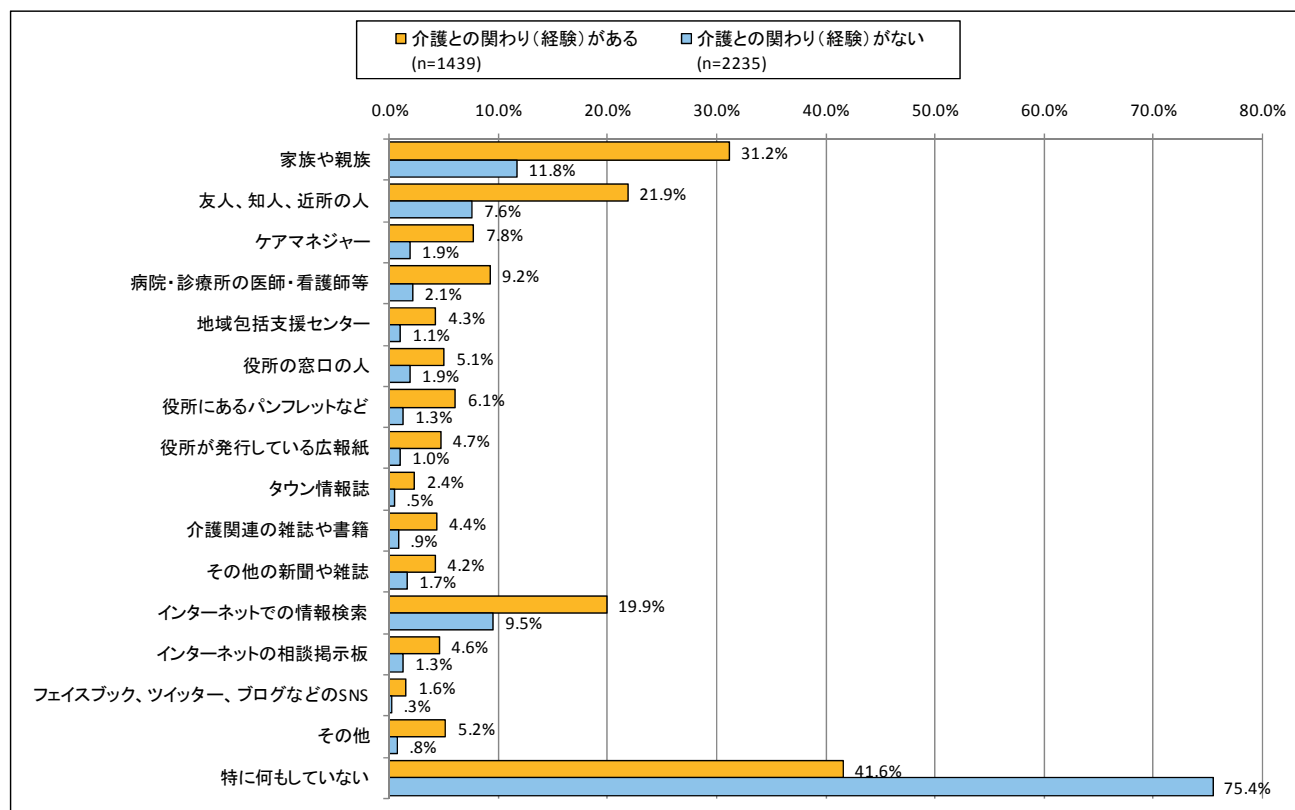
※親が現在介護の必要な状態にある人を対象



近い将来（2～3年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人に対して、介護経験別に介護についての情報源をみた。「過去に介護との関わり（経験）があった」人のほうが、公的・私的を問わず、さまざまな機関や人からより多く情報を収集していた。インターネットでの情報検索も約2割の人が行っていた。

【介護との関わり（経験）別＊介護についての情報源】

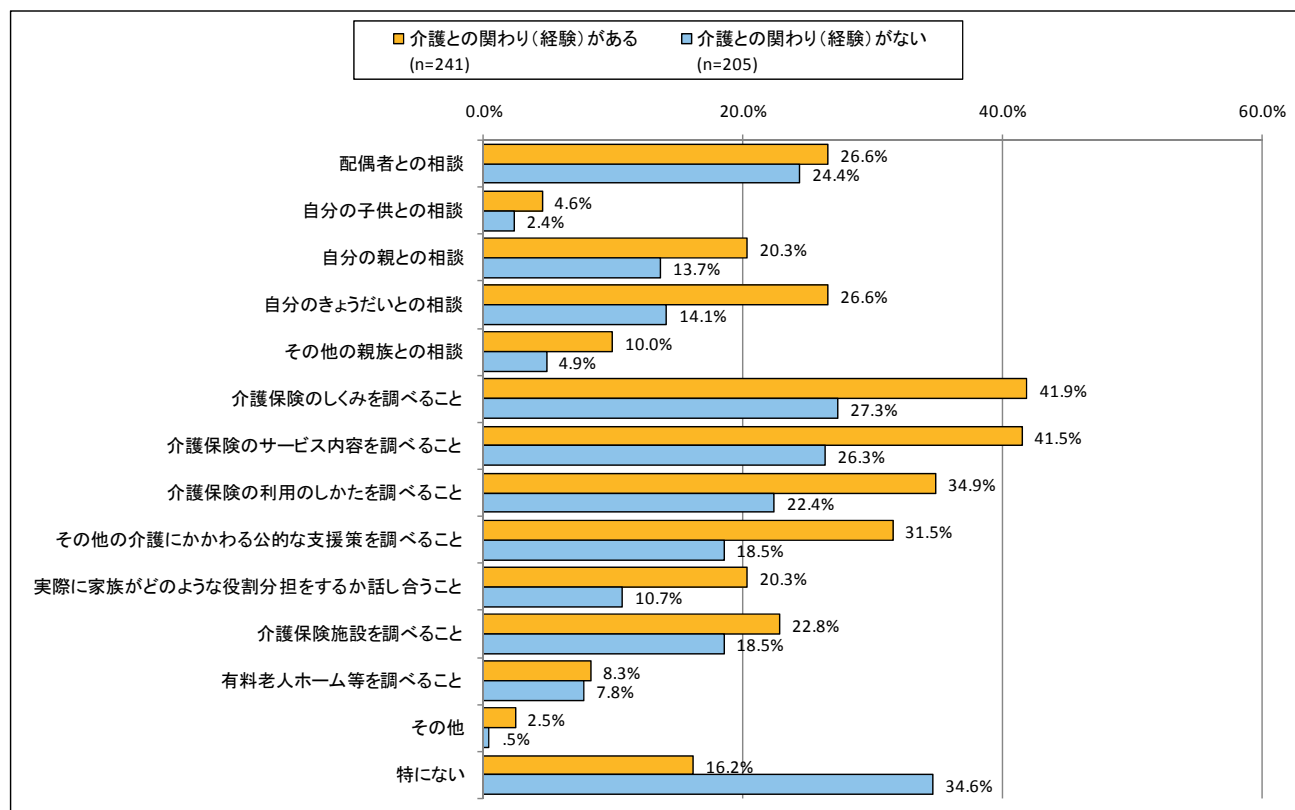
※ 近い将来（2～3年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人を対象



親が現在介護の必要な状態にある人に対して、介護経験別に、親の介護について事前に準備しておけばよかったことをみた。「過去に介護との関わり（経験）があった」人は、特に介護保険のしくみ・サービス内容・利用のしかた、その他の介護にかかわる公的支援策などを調べておけばよかったと振り返る回答が多かった。

【介護との関わり（経験）別＊親の介護について事前に準備しておけばよかったこと】

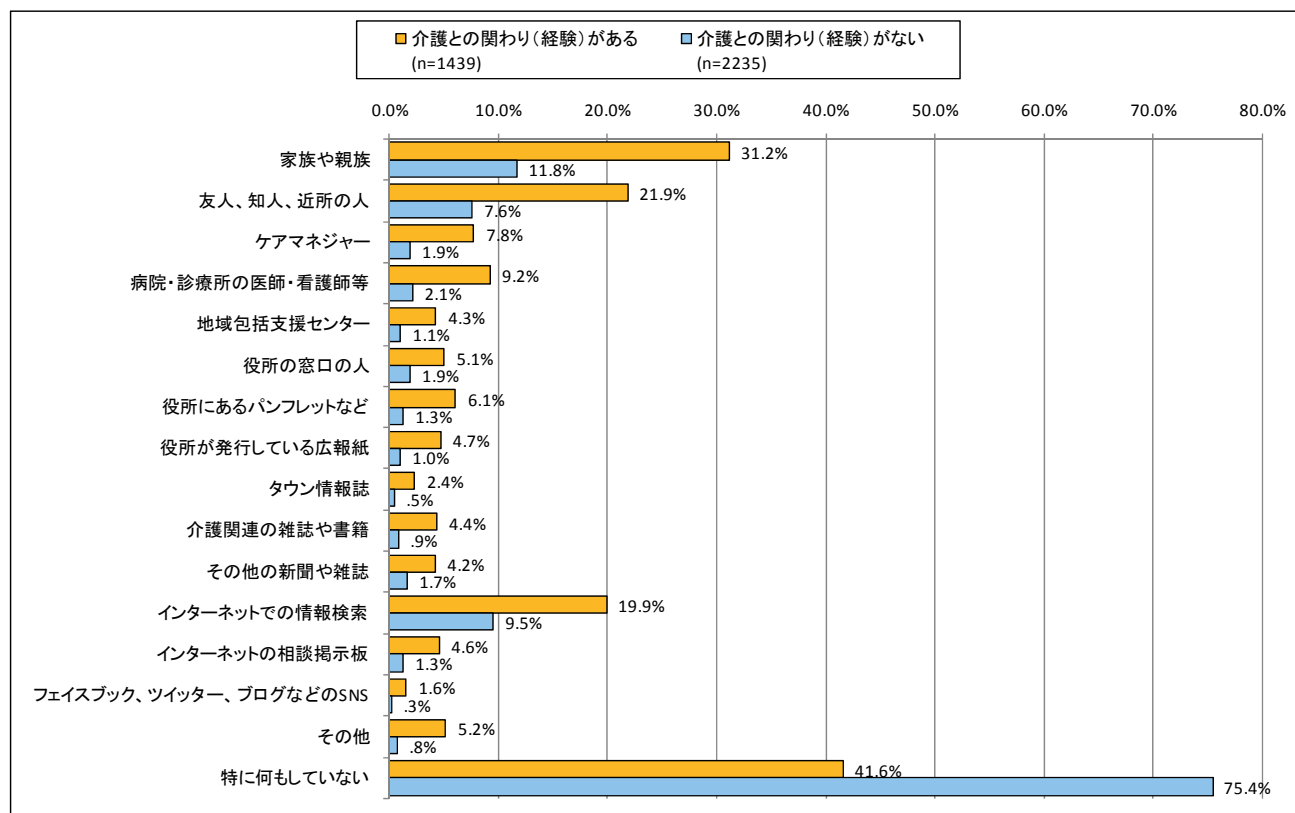
※親が現在介護の必要な状態にある人を対象



近い将来（2～3年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人に対して、介護経験別に、介護が必要になったときのための準備行動をみた。「過去に介護との関わり（経験）があった」人は、配偶者や親等家族との相談や介護保険のしくみを調べる等の準備行動を、「過去に介護との関わり（経験）のない」人よりも多く行っていた。

【介護との関わり（経験）別＊介護が必要になったときのための準備行動】

※ 近い将来（2～3年のうち）親の介護が必要になると思う人、まだ親の介護の心配はないと思う人を対象



過去の介護との関わり（経験）別に、公的支援の認知度をみてみた。「介護との関わり（経験）があった」人のほうが、どの公的支援策についても、「介護との関わり（経験）のない」人よりも認知度が多かった。

【介護との関わり（経験）別＊公的支援の認知度】

